

日本消防



- 「地域総参加の防災力向上」大会
- 自治体消防75周年記念大会
- 日中韓消防協会会議

12
2024

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金

補償倍率UP

300倍から750倍へ

**消防団員
消防職員
なれどなたでも
加入できます**

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

消防団
消防本部

毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



ひまわりしているか
ひのようじん

お支払
対象

- 火災共済金 火災・落雷・爆発・破裂
- 風水雪害等共済金 風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等
- 地震等災害見舞金 地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円（ゆうちょ
銀行は五千円）から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金（6種類）又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金（脱退一時金）
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00～17:00

お問い合わせ先

(公財)日本消防協会

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号
TEL.(03)6263-9401 (代表)
<https://www.nissho.or.jp>

「地域総参加の防災力向上大会」の開催

令和6年11月7日(木)【ニッショーホール】

(4頁～8頁に掲載)



「自治体消防75周年記念大会」の開催

令和6年11月29日(金)【ニッショーホール】

(10頁～15頁に掲載)



巻頭言

「地域に根差した魅力ある消防団を目指して」 『不易流行』—不変の中の変化

(公財)長野県消防協会 会長 福澤 賢治



1 長野県の紹介

信州、長野県を紹介する際、まずお話ししたいのは、県土の広さと地域の多様性です。本県は本州のほぼ中部に位置し周囲は8県に隣接。東西約128km、南北は特に長く約220kmで、全国で4番目の面積です。北、中央、南の各アルプスは2,000～3,000m級の山脈で“日本の屋根”と呼ばれています。

人口は約199万人、市町村は77で、中でも村が35と全国最多です。長野県は大きく東信、南信、中信、北信の4ブロックに、県の地域振興局で10地域に分けられます。各地域は独自の自然、風土に育まれた文化、暮らしが根付いています。山岳、高原やスキー場、史跡、名勝、温泉などの観光地も多く、産業は農業、林業、製造業、観光、サービスなど地域の強みを生かして発展してきました。大自然を楽しむアウトドア、歴史文化の探求、地酒やワイン・郷土食に舌鼓、温泉旅館に投宿・・・長野県は様々なスタイルで四季を体験できる県です。

2 長野県の消防団員の状況、

県協会の概要について

長野県の消防団員数は、令和6年10月1日現在で28,730人と全国第3位であり、女性消防団員は1,065人と全国第5位です。全国と同様に団員数は減少傾向にあり、令和5年度に初めて3万人を割り込み、対前年減少数は

861人となっています。一方の女性団員は最近10年間で約1割増加しており、その活動内容の幅広さからも、女性消防団員の加入促進にも力を注いでいくことが必要と認識しています。

長野県消防協会は昭和22年に設立、昭和53年に財団法人となり、平成24年4月、公益財団法人として認可され今日に至っております。郷土の安全、県民・消防団員の福利増進に寄与することを目的として、防火思想の普及啓発、消防施設の整備改善、消防活動の強化充実のための事業に取り組んでいます。

組織は、会長と県下4ブロックから選出された団長が就任する副会長4名が中心となって、運営を担います。また、ブロックを構成する県内13地区消防協会の会長は長野県消防協会の各理事を務めます。13の地区消防協会は、地域内の3～14の市町村消防団で構成する組織です。各理事は「総務」「教養」「福利厚生」の3つの専門委員会のいずれかに所属し、事業計画や予算の検討、協議を行っております。

3 長野県消防協会の主な活動

まず、広報事業として、広報紙「信州消防」の発行や県や県協会、地区消防協会が作成した消防団員募集動画を紹介するホームページの運営も行っています。

今年は7月に長野県消防ポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会を開催しました。コロナ禍で

中止していた令和2年、3年は、団員の負担軽減を目的に「あり方検討委員会」を設置し、大会等の形について協議を重ねました。

長野県は特に消防ラッパの継承に力を入れており、ラッパ隊員は、ポンプ操法大会と同日に開催するラッパ吹奏大会に向けて、日々訓練に励んでいます。

消防ラッパは、現場では活動の伝達、式典等においては列席者への敬意を表すものですが、近年、その活動の本来の意味や必要性が疑問視されております。ラッパ吹奏に限ることではありませんが、組織を統べる私達は、その活動の重要性をしっかりと後世に伝え続ける責務があると考えております。

次に消防団長・事務主任研修大会を紹介します。毎年10月に行っており、今年は第14回になります。講演会やテーマを決めたグループディスカッションと発表、意見交換などを行い、77の消防団長、事務主任がそれぞれ情報交換により自身の活動の参考としてもらえる機会となっております。今年度は10月6日(日)心理士の講師をお招きし「サイコロジカルファーストエイド 災害時におけるこのころのケア」をテーマに講演と意見交換を行いました。

女性消防団員活性化会議及び県活性化大会も特徴ある取り組みです。女性消防団員が所属する団の中で自立的、積極的に行動、発言し団幹部と意思疎通が円滑に行われること、また女性団員同士が交流、情報交換できるように平成30年度に設置されました。会議には地区協会からの代表が出席し、年3～4回会議を開催して各地区での活動紹介や県大会の企画など意見交換を行っています。昨年度は全国女性消防団員活性化石川大会に参加し、パネル展示による活動発表の紹介を行いました。今年度はとちぎ大会にも参加し、第3回

となる県大会は前述の研修大会と同時開催とし、会議のメンバーが受付や司会に活躍しました。

また、消防団音楽隊の活動も活発で、定期演奏会をはじめ、防災イベントや地域の催事に出演し、音楽を通して多くの人に「予防消防・防火・防災」を呼びかける活動を行っています。音楽には道往く人の足を止め、その場の聴衆を一体とさせる力があります。消防団活動の魅力を発信する時間と空間を作り上げてくれる消防団音楽隊の活動を最大限に活かせるよう、各団がお互いに交流、協力できる環境整備も必要と考えます。

4 おわりに

南海トラフ地震防災対策推進地域に県内市町村の約半数が指定され、更には県域に糸魚川静岡構造線が走る当県は、引き続き危機管理への万全な準備を進めていかなければなりません。また、豪雨による地滑りや河川の氾濫など、気候変動の影響で甚大化している災害対応にも、地域で活動する消防団の力が不可欠です。

「不易流行」とは、いつまでも変わらないものの中に、新しい変化を取り入れることを示す言葉です。本来の消防団の存在意義を大切にしつつ、時代に即した活動に形を変え挑戦し続ける「不易流行」が令和の消防団に必要なと考えます。消防団が今後も変わることない「地域に根差した魅力ある消防団」であるために、長野県消防協会は団員の士気の高揚、技術・知識の習得、交流の推進を図り、地域防災力の一層の充実強化のため取り組んでまいります。

日本消防協会並びに全国都道府県の消防協会及び関係者の皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

自治体消防75周年記念大会、開催しました

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

前々からの予定どおり、令和6年11月29日、新会館において、自治体消防75周年記念大会を無事開催することができました。

当日は、天皇陛下のご臨席を仰ぎ、お心のこもったお言葉を頂きました。そして、臨時国会開会早々のご多忙の中を、石破茂内閣総理大臣、額賀福志郎衆議院議長、関口昌一参議院議長、今崎幸彦最高裁判所長官にもご臨席を頂き、それぞれご丁寧な祝辞を頂きました。表彰もつつがなく行うことが出来ました。

臨時国会開会早々という時期に、このようにお心のこもった大会を開催することが出来たのは、全国各地の様々な災害発生の時、消防の皆さんの活動が高く評価されており、また、今後の消防活動の展開に大きな期待が寄せられているためと、私は感じました。完成したばかりの新会館、新ホールにおいてこのような大会を開催することが出来たのは、誠にありがたく、深く感謝いたしているところです。会場の皆さんもそのようにお感じになったのではないのでしょうか。この思いを大切にしながら、これからの消防活動に活かさなければならないと思うのですが、当日の第2部では、ご講演のほか、これからの日本消防のあり方を中心にご討議頂くシンポジウムも開催しました。

パネリストには、消防庁国民保護・防災部の小谷敦部長の他、日消顧問でもあります室崎益輝先生、福島県相馬市長で先日まで全国市長会会長でいらっしゃった立谷秀清市長、消防活動の現場経験豊富な元東京消防庁消防総監の大江秀敏さん、元滋賀県消防協会会長植田和生さんにご出席頂き、それぞれご意見を頂きましたが、そのご意見は、消防団や緊急消防援助隊の重要性、地域の皆さんとの一体性確保などの基本的な課題に触れて頂いたり、地域の消防防災活動が当面するいろいろな課題をご指摘頂くなど、これからの日本消防のあり方を考えるうえで重要なポイントと思われる点をお話し頂きました。本当はもっともっとご議論頂けるようにしなければと思いましたが、時間が限られていて、申し訳なく思いました。そう考えますと、あのシンポジウムのご議論は、何かの形でもっと発展させ、日本消防の一層の発展に活かしていかなければならないなあと感じてしまいます。

このような記念大会を開催することが出来たのは、ご出席頂いたご来賓の方々をはじめとする、全国の消防関係の皆さん、大会開催に向けて事務方としてもご尽力いただいた皆さんのおかげです。改めて深く感謝申し上げますと共に、無事終了でホッとするだけでなく、この大会の成果をこれからの日本消防の一層の発展に活かさなければならないと思います。皆さん、これからもよろしくお願いします。

「地域総参加の防災力向上大会」の開催

(公財)日本消防協会

今年は「消防団を中核とする地域防災力の充実強化に関する法律」が制定されてちょうど十年であります
が、この時、多数の皆様のご協力によりまして、新しい日本消防会館を完成することができました。

このことについての感謝の思いを込めながら、新会館において、地域防災力の一層の充実強化を進める
よう、全国各地の皆様のご協力をいただき、令和6年11月7日(木)午後1時から新日本消防会館のニッ
ショーホールにおいて「地域総参加の防災力向上大会」を開催させていただきました。



司会は日本でも有名な語り部であります平野啓子さんをお願いし、
開会は主催者挨拶として日本消防協会会長の秋本敏文から、地域の
防火防災体制が大事だということは、特に阪神淡路大震災後、全国
的な応援体制として緊急消防援助隊を創設しました時に、地域の皆
さんが助け合う体制も同時に必要だと考えられたことから既に始
まっていたこと、そして、東日本大震災を契機としてそのことの重
要性が更に強く認識され、地域防災力の充実強化をめざす新しい法
律が制定されて約10年になること、そして、この間これまでと様相
が異なる大規模な災害が発生し、一方で地域社会の様子も変化して
おり、地域の皆さんの生命財産を守るうえで地域の皆さんの総参加
総活躍による地域防災体制は益々重要になっていること、このよう
な中であって、全国各地から各企業、団体の地域防災に頑張ってい
ただいている活動事例を発表していただき、地域防災にお詳しい方々のご意見をいただくなど地域防災の
一層の充実発展をめざしていきたい旨の挨拶がありました。

ご来賓のご挨拶は、総務大臣政務官の船橋利実様から、今年の能登半島地震や宮崎県日向灘を震源とす
る地震を例に、総務省としては消防団や自主防災組織等の活性化や地域の防災リーダー育成など、今後も
「共助」を担う人材が確保され、能力を高め、地域の防災力が高まるよう最善の努力を尽くしてまいります
とのご挨拶をいただきました。



船橋利実 総務大臣政務官



秋本敏文 日本消防協会会長



平野啓子 さん

●Aグループは民間等が主体となった活動事例

近畿ブロック

三重県志摩市、株式会社山下組、代表取締役の山下信康様から、山下組は津波発生時に地域住民が直接屋上に避難できるよう外部階段を改築、事務所3階の居室を20名が3日間避難することを想定した備蓄を、また、地元自治会と協定を結び、防災施設の情報をパンフレットにして地域に配布したり、地域に根差した様々な防災活動を行っていることが報告されました。



山下信康 様

九州ブロック

福岡県福岡市、一般社団法人福岡県解体工事業協会、相談役の平典明様から、解体工事現場は、災害時の建物の状況に非常に類似しているため、解体工事業者はがれきの撤去や倒壊家屋の解体にも精通しているため、その能力と技術を人命救助や災害復旧に役立て社会に貢献している。具体的には地元消防局との防災協定締結を機に解体現場を訓練の場として提供して、隊員に重機操作や壁穴開けの指導をするなど、行政と民間の協働による防災活動を推進していることが報告されました。



平典明 様

四国ブロック

徳島県徳島市、株式会社とくし丸、取締役の佐藤禎之様から、全国で展開する移動スーパーのネットワークや機動力を活かした企業として「顔の見える関係」を生かし、地元の自治体や警察とも協力して高齢者の見守りや防災、防犯の啓発活動にも取り組んでおり、能登半島地震においても生活物資の無償提供など被災者の救援にも貢献していることが報告されました。



佐藤禎之 様

北海道ブロック

北海道根室市、歯舞漁業協働組合の取組みについて、漁港漁場漁村総合研究所、次長の後藤卓治様から、小型漁船でコンブ漁をしている漁業者に対して、津波などの緊急情報配信をサイレン音で通知することにより、漁業者の命を守るための防災情報伝達システムを開発し、実用化している取組み、更に令和5年1月より供用が開始されました。また、歯舞漁業協同組合新施設4階(地上17m)に自家発電・避難室(150名収容)・避難調理室の防災棟施設について報告されました。



後藤卓治 様

●Bグループはさまざまな地域コミュニティ団体が主体となった活動事例

東北ブロック

宮城県気仙沼市、鹿折まちづくり協議会、会長の熊谷英明様から、東日本大震災により壊滅的な被害を受けたことを契機として、鹿折まちづくり協議会が設立。自治会と協力しながら、令和元年東日本台風の被害状況調査を行い、情報を報告書としてまとめ、市や地域住民と情報の共有を行った。また、地域住民や中学生、外国人技術実習生など多世代を対象に、感染症対策を考慮した避難所開設・運営訓練などを実施していることが報告されました。



熊谷英明 様

関東ブロック

神奈川県横浜市、横浜市消防局南消防署、消防士の増田晴美様から、横浜市の子供達が楽しく防災について学べるコミュニティ「防災てらこや」という商店街を基軸とした共創による防災まちづくりの取組みについて発表されました。具体的には商店街が場所と機会を提供し、民間企業のコンテンツや広報活動、消防署による防火・防災教育、消防団等の多言語サポートを組み合わせ、国籍を問わず、子供達から保護者までが楽しく学べる幅広い機会の提供をしている取組みが報告されました。



増田晴美 様

中部ブロック

富山県小矢部市、小矢部市障害者団体連絡協議会、会長の嶋田幸恵様から、障害者と健常者がただ防災訓練に参加するということではなく、障害の種類（4種・視覚・聴覚、車いす・知的・精神・発達障害）に分けた「障害の種類別対応方法」を作成し、障害者の防災訓練のマニュアルを作成。行政と障害者団体が話し合いながら、共同で取り組んでいることから、女性団体、自主防災会、自治振興会、長寿会などとの連携が広がり、共生社会づくりにつながっていることが報告されました。



嶋田幸恵 様

中国ブロック

広島県広島市、早稲田学区自主防災連絡協議会、事務局長の川島孝様から、早稲田学区では、平成30年の西日本豪雨の被災経験から、わせた防災プランという地区防災計画の実施ガイドを作成し、日常に+（プラス）防災を具体化するため、新たに防災につながる活動が展開されている。更には、警察や医師会など様々な幅広い団体を取り込み新たな防災コミュニティネットワークづくりが進められていることが報告されました。



川島孝 様

また、お忙しい身であるにもかかわらず、この大会に駆けつけていただいた消防応援団の山田邦子さんには、Aグループの民間等が主体となった活動事例の発表が終わった後と、Bグループのさまざまな地域コミュニティ団体が主体となった活動事例の発表が終わった後と、2度もお登壇いただき、地域防災に取り組む方々に対して、ご激励をいただくとともに、ユーモアあふれる会話で会場を盛り上げて下さいました。



山田邦子 さん

シンポジウムの開催

テーマ「地域総参加の防災力向上について」

前半は、全国各地の具体的な活動事例を発表していただいたところですが、後半は、このことについて専門的な研究や具体的な活動を進めておられる方々の意見交換などを行い、地域の皆さん総参加の地域防災体制の充実強化をめざすため、更にこのテーマについて深堀をしていくためのシンポジウムを開催しました。

パネリストは広島市長の松井一實様はご多忙のため映像によるご参加、そして、東京大学先端科学技術

研究センター教授の廣井悠様、兵庫県立大学大学院教授の阪本真由美様、富山県小矢部市障害者団体連絡協議会会長の嶋田幸恵様のご登壇をいただき、進行役は日本消防協会会長の秋本敏文により開催しました。

最初に、全国市長会会長でいらっしゃる広島市長松井一實様から、広島市の具体的な取り組みについて、特に、広島市は平成26年と平成30年に大規模な豪雨災害を経験しておられ、こうした体験のもとに、防災リーダーの養成を始め、自主防災組織が主体となって行う防災訓練、地域独自の情報を盛り込んだ防災マップの作成、大学生などの学生を対象とした消防団サポーター制度、地域コミュニティを活性化させるため概ね小学校区を活動範囲として地域の課題に取り組む「ひろしまLMO」への支援などを通じて地域の防災力向上に貢献している取り組みについてご報告をいただきました。

富山県小矢部市障害者団体連絡協議会会長の嶋田幸恵様から、様々な障害者の方々を防災訓練に巻き込んでいく際のご苦労話から、これらの課題を一つずつ克服していかれたお話がありました。

兵庫県立大学大学院教授の阪本真由美様から、地域で活動しようとする本当に多くの人の協力が必要になってくるものであること、そして、地域総参加になるには大変だけれどもユニークな取り組みも生まれるものであることのお話がありました。そのユニークには2つのポイントがあり、一つ目は、いつもやっている取り組みが防災につながっていくということで、いつもやっている活動を良くしていくことが、もしもの時に役立ち、もしもの時をより良くすることにつながっていくということ。二つ目は、防災で豊かな暮らしをつくる、防災で豊かな地域をつくっていくということで、防災をきっかけとして地域活性化につながっていくという視点で、やはり、つながり力が大切であり、いろんな人たちを巻き込む力、これがないと地域の防災力は向上していかないということと、もう一つ、日頃の生活に潜んでいる何か新しい問題に気づく力が大切であることのお話がありました。気づく力を地域活性化に持っていけると日本はより豊かな地域になっていくのではないかとご意見をいただきました。

東京大学先端科学技術研究センター教授の廣井悠様から、Aグループの民間等が主体となった活動事例について、防災まちづくりにおいて一番重要な地域性を活かしていることに加えて、地域の企業の非常に良い特徴、長所を上手く活かしていることのご感想をいただきました。また、Bグループの地域コミュニティが主体となった活動事例について、いろいろな方々が参加していること、防災まちづくりが上手く進むかどうかという論点として多様性というものがあり、ここには色んな人を取り込む、色んな人に参加してもらおう、防災もまちづくりというのは防災だけではなくて医療とか介護とか福祉とか教育とか、様々な取り組みと一緒に防災を考えましょうということ、そして、防災を使って今の地域コミュニティを再構築するような取り組みができないかと考えていることのお話がありました。

このコミュニティの再構築というのは仲間集めであること、そのためには、将来こういう未来をつくるために一緒に頑張ろうよと仲間集めをするという発想は重要であること、そして、それをうまく防災を使うこと、防災は目的ではなく手段であること、上手く防災を手段にして地域コミュニティをキチンと再構築する視点は、とても重要であることのお話をいただきました。

また、富山県小矢部市障害者団体連絡協議会会長の嶋田幸恵様から、人と人とのつながりについて防災まちづくりにおける総務大臣賞の受賞が一つの契機となって横とのつながりが広がってきたことのお話や、そのつながりをつなげていくことの大変さの中で、しっかりと頑張っておられる取り組みについてお話をいただきました。

兵庫県立大学大学院教授の阪本真由美様から、地域をベースにした共助について、実は、これは世界的に見ると非常に珍しく、アメリカでは地域をベースにした共助コミュニティというのはほとんどなく、アメリカの災害対応は自分が何とかするか、行政の支援をもらうかで、時にはお金を出しているいろんなサービスを買うという状況になる。日本ではそこに地域コミュニティが行政に代わって支援するという、地域の人達で助け合うという仕組みがあるが、この地域力というのが薄れつつあって、今、この地域力を取り戻さないと将来の災害対応は自分で何かするか、行政に何かしてもらいかなくなってしまうことのお話がありました。しかし、行政が対応できるかという行政の方も市町村合併をして職員の削減をされていて、いざという時に駆けつけられる行政職員なんてほとんどいないこと、また、避難所運営でも行政職員がいるということは厳しいような状況で、地域がなくなると自助しかなくなってしまうので、やはり、今のタイミングで地域づくりが大切であって、いざという時に助け合う体制をつくっていくというのは、日本に

とって最後のセーフティネットではないかとのお話をいただきました。

東京大学先端科学技術研究センター教授の廣井悠様からも、将来的にはお金を出さないと命が助からない世界に日本もなるんじゃないかと思われていること、災害による死者についてもむしろ増えるような時代が来るのではないかと危惧があり、だからこそ地域力がとても重要であること、どうやってつながりをつくっていくかについては、地方公共団体の役割が重要であること、そして、地域にあるいろんなコミュニティ組織をつなげていただき、新しい発見、新しいイノベーションを起こしていただきたいとお話をいただきました。

この後、進行役の日本消防協会会長、秋本敏文から会場の皆様に対してご発言を求めたところ、とくし丸の佐藤様から、全く危機感のない住民の方々に対する対応手段についての質問がありました。

兵庫県立大学大学院教授の阪本真由美様から、危機感を持っていないわけではなく、それなりに持っているけれど地域の防災活動に結びついていないところが課題であるとお話があり、そこを上手く広げていって、つないでいく仕組みを考えなければいけないのだとお話をいただき、そして、そのための地方公共団体の役割も重要になるし、企業などの役割も重要になる旨のお話をいただきました。

東京大学先端科学技術研究センター教授の廣井悠様からは、その人の価値観に寄り添ってあげることが何よりも大切であること、そして、それぞれの価値観にあった説得の仕方を考えることが重要であるとお話をいただきました。

ここで会場から、宮城県女性防火クラブ連絡協議会、副会長の山田はるみ様から、婦人女性防火クラブでは後継者不足や高齢化で厳しい状況にある中、若い人たちに防災意識を持っていただこうと努力を重ねているお話をいただきました。

最後に、進行役の日本消防協会会長、秋本敏文から、地域の防災力充実強化というのは本当に大事な問題であり、お一人お一人の力というだけではなく、地域の総参加ということは、いろんな力を持っている方々が皆さん参加していただき、総合力として大変に大きなものになること、これからも地域の防災力充実強化のために頑張ってくださいよう、よろしく願い申し上げますとお話があり、そして、何よりも皆さま方のご地元が平穏無事でありますように、皆さんにつながるお仲間がとにかく事故なくお元気でお過ごしいただきますよう心からお祈り申し上げ、ご参加いただきました皆様にお礼を申し上げて閉会となりました。



左から：秋本敏文会長、嶋田幸恵様、阪本真由美様、廣井悠様
広島市長：松井一實様(映像によるご参加)

第13回日中韓消防協会会議の開催

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、平成21年から中国消防協会及び韓国消防安全院とともに毎年日中韓消防協会会議を開催し、情報交流を行っています。

第13回目となる今年度の日中韓消防協会会議は、10月29日(火)に新日本消防会館において開催し、中国消防協会から曹副会長以下10名、韓国消防安全院から李会長以下5名の各代表団を迎え、日本側からは、日本消防協会秋本会長をはじめ、松浦嘉昭副会長、花田了彰副会長、山口彦市副会長等が出席しました。

会議では、秋本会長を議長として、自然災害をはじめとする近年頻発している大規模災害への消防の対応や動向について情報交流を行い、各国が抱えている問題や課題解決に向けた取組について意見を交わしました。今後も日中韓3か国が連携を密にし、継続的な相互の協力体制の強化を目指してまいります。

次回(令和7年度)の日中韓3か国会議は韓国で開催されます。



自治体消防 75 周年記念大会の開催

(公財) 日本消防協会

はじめに

令和 6 年 11 月 29 日(金)、日本消防協会及び全国消防長会は、完成して間もない新しい日本消防会館「ニッショーホール」において、天皇陛下の御臨席を仰ぎ、石破茂内閣総理大臣、額賀福志郎衆議院議長、関口昌一参議院議長、今崎幸彦最高裁判所長官、村上誠一郎総務大臣はじめ多数の御来賓の御出席をいただき、自治体消防 75 周年記念大会を開催しました。本大会には、全国の消防職団員をはじめ、国会議員、政府関係者、地方自治体関係者、女性防火クラブ等の地域防災関係者など、約 700 名の方々に御参加いただき、盛大に開催することができました。



大会概要

記念大会は、徳光夫さんと平野啓子さん(お二人とも日本消防協会の消防応援団でもあります。)の司会により、数々の災害・事故により殉職された消防関係者の御霊に対する深い黙祷に引き続き、次により執り行われました。



天皇陛下御臨席



司会の徳光さん、平野さん



黙祷

1. 第一部 記念式典

- (1) 開式の辞 日本消防協会副会長 松浦嘉昭
- (2) 国歌斉唱
- (3) 式 辞 日本消防協会会長 秋本敏文



開式の辞(日本消防協会副会長 松浦嘉昭)

式 辞

天皇陛下の御臨席を仰ぎ、石破茂内閣総理大臣をはじめとする多数の御来賓の御出席のもと、自治体消防75周年記念式典を開催させていただきましたのは大きな感激であり、これからの日本消防の一層の発展をめざす消防関係者の志気が一段と高まるものと存じます。

我が国消防は、明治以前からの伝統を受け継ぎながら、明治27年の消防組、現在の消防団の発足以来、常備消防、消防団の体制のもと発展してまいり、第二次大戦後の自治体消防制度発足を経、諸先輩の真剣な御尽力によって、今日、世界有数の体制へと発展してまいりました。

この間、我が国は、火災、水害のほか、地震、津波、火山噴火など数多くの大規模な災害と闘い、また、身近な火災、事故にも対処してまいりました。特に近年は地球環境の変化を背景に、これまでと様相が異なる大規模な災害が我が国だけでなく、世界各地で発生しています。

消防は、そのような中、国民の皆さんの生命、財産を守るという基本使命達成のため全力を尽くしていますが、一方では、地域社会においても少子高齢化による人口減などの変化があり、また、新たな技術、素材により消防活動が新たに対象としなければならないものなどがあり、消防は、時代の進展に応じた人的な体制や装備の一層の充実が必要となっております。

今、自治体消防75周年の時にあたり、このたび完成した日本消防会館を日本消防の総合的中核拠点として活用しつつ、このような新たな課題に正面から対応しながら、国民の皆様の安全確保のため一層の努力をしなければなりません。

最後に、本日の自治体消防75周年記念式典を契機として全国消防関係者が消防の使命達成のため、さらに総力を尽くすことになることを申しあげますとともに、本日の大会開催に御協力いただいた方々に対し深く感謝申し上げます。式辞といたします。

令和6年11月29日

公益財団法人日本消防協会 会長 秋本敏文



(4) 天皇陛下おことば

天皇陛下から、おことばを賜りました。

天皇陛下おことば

自治体消防75周年記念大会に、全国から参加された消防関係者の皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

自治体消防は、昭和23年の発足以来、国民の生命、身体、財産を様々な災害から守るために、極めて大きな役割を果たしてきました。長年にわたる関係者の皆さんの尽力に深く敬意を表します。また、厳しい任務を遂行する中で、不幸にも尊い命を犠牲にされた方々と御遺族に心から哀悼の意を表するとともに、負傷し、病を得た方々の御苦労に思いを致したいと思います。

今年も、石川県において新年早々に発生した能登半島地震や各地の豪雨災害などに対し、地元消防はもとより、たくさんの方々が、緊急消防援助隊として現地での救助・救急活動に従事されたと聞いております。現地で対応に力を尽くされた関係者の皆さんの努力を深く多といたします。

近年、私たちを取り巻く環境の変化により、これまでとは様相が異なる大規模な災害が各地で発生しているほか、社会インフラの老朽化や、人口減少、高齢化などによる地域防災力の低下といった課題もある中で、消防に携わる皆さんの御苦労もいかばかりかと思います。今後とも、全国各地の消防関係者の皆さんが、安全に消防活動に従事し、それぞれの地域社会のために力を尽くしていかれることを願い、式典に寄せる言葉といたします。



(5) 祝辞

三権の長の皆様から御祝辞をいただきました。

石破茂内閣総理大臣は、消防関係者に対する労いの言葉とともに、「今後、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模地震の発生も懸念される中、政府においては、「防災庁」の設置準備も着実に進めながら、地方自治体と連携して防災・減災、国土強靱化を推進し、国民を守ってまいります。」と強い決意を述べられました。

続けて、額賀福志郎衆議院議長からは「衆議院として、更なる消防制度の発展と地域防災力



祝辞(石破茂 内閣総理大臣)



祝辞(額賀福志郎 衆議院議長)



祝辞(関口昌一 参議院議長)



祝辞(今崎幸彦 最高裁判所長官)

の充実強化に真摯に取り組んでまいります。」と、そして関口昌一参議院議長も「参議院といたしましても、自治体消防の意義を十分に踏まえ、その取組を後押ししてまいります。」との力強いお言葉をいただきました。最後に、今崎幸彦最高裁判所長官からは「消防制度を担う皆様の活動に対する国民の期待はますます高まっていると言えます。」と今後の消防活動に対する期待のお言葉をいただきました。

(6) 表彰及び感謝状贈呈

自治体消防75周年を記念し、次のとおり表彰及び感謝状贈呈を行いました。

(カッコ内は代表受領者、敬称略)

- ア 内閣総理大臣表彰 17名 (奈良県川上村消防団長 栗山 秀夫)
- イ 総務大臣感謝状 13名 (消防研究センター研究評価委員 長谷見 雄二)
- ウ 消防庁長官表彰 17名 (川崎市消防局長 望月 廣太郎)
- エ 日本消防協会会長表彰
 - ・特別功労者表彰 9名 (前東京都消防協会会長 沖山仁)
 - ・永年勤続功労者表彰 423名 (筑後市消防団長 角一徳)
 - ・消防団員家族表彰 1,018家族・3,243名 (松山市消防団 大西浩司)
- オ 全国消防長会会長表彰 31名 (金沢市消防局長 藏 義広)
- カ 日本防火・防災協会会長表彰
 - ・優良幼年消防クラブ表彰 25団体 (新座市幼年消防クラブ連合会)
 - ・優良少年消防クラブ表彰 22団体 (立川消防少年団)
 - ・優良女性防火クラブ表彰 25団体 (香川県大川町女性防火クラブ)
 - ・優良自主防災組織表彰 16団体 (福岡県若松区東28区市民防災会)



内閣総理大臣表彰



総務大臣感謝状贈呈



消防庁長官表彰



日本消防協会会長表彰



日本防火・防災協会会長表彰



全国消防長会会長表彰

(7) 閉式の辞 日本消防協会副会長 花田了彰

式典の終了により、会場内の万雷の拍手の中、天皇陛下は御退席され、次いで石破茂内閣総理大臣はじめ御来賓の皆様が御退席されました。



閉式の辞(日本消防協会副会長 花田了彰)



天皇陛下御退席

2. 第二部 記念講演及びシンポジウム

近年、地球環境の変化を背景に、災害の様相が大きく変化し、災害が頻発化しており、また、少子高齢化の進行など社会情勢も変化していることを踏まえ、これまでの日本消防の歴史を振り返りながら、これからの日本消防のあり方を協議するため、以下の記念講演及びシンポジウムを実施しました。

(1) 記念講演

「日本消防 ―これまでとこれから―」 神戸大学名誉教授 室崎益輝 氏

「日本消防の歴史」 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授 鈴木 淳 氏



記念講演「日本消防 ―これまでとこれから―」
(室崎名誉教授)



記念講演「日本消防の歴史」
(鈴木教授)

(2) シンポジウム

テーマ

「これからの日本消防 ―さらなる変化への対応―」

コーディネーター

日本消防協会会長 秋本敏文

パネリスト

消防庁国民保護・防災部長 小谷 敦 氏

神戸大学名誉教授 室崎益輝 氏

相馬市長、前全国市長会会長 立谷秀清 氏

元全国消防長会会長 大江秀敏 氏

元甲賀市消防団長、前滋賀県消防協会会長 植田和生 氏

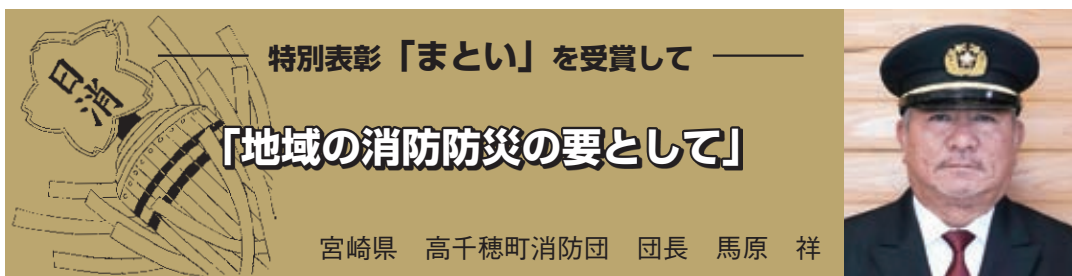


シンポジウム「これからの日本消防 ―さらなる変化への対応―」

記念講演では、室崎名誉教授、鈴木教授からそれぞれ御講演いただくとともに、シンポジウムでは、首長や現場経験者などそれぞれのお立場での経験を踏まえた課題を御指摘いただくなど活発な意見交換がなされました。

おわりに

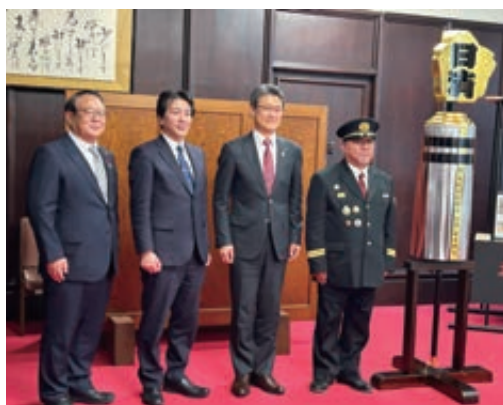
このたびの記念大会は、天皇陛下のおことば、石破内閣総理大臣をはじめとする三権の長の方々の御祝辞をいただくという、大会参加者にとっては感激ひとしおの大会となり、今後の活動に向けて大きな力をいただく機会ともなりました。消防関係者一致団結のもと国土を守り、国民の皆様の安全を守る消防使命達成への決意を新たにいたしました。



1 はじめに

令和6年3月8日に日本消防会館（ニッショーホール）にて厳粛かつ盛大に開催されました「第76回日本消防協会定例表彰式」において消防団にとりまして最高の栄誉である特別表彰『まとい』を受賞いたしました。

全国2,200余りの消防団の中からこの栄誉ある表彰を受賞できたことは、高千穂町消防団の長い歴史と伝統の中で日夜努力を積み重ねてこられた諸先輩方の功績はもとより、現在活動をしている消防団員各位の日頃からの努力だと思い、消防団員にとってこの上ない喜びであり、大変うれしく思うところであります。また、消防団員のみならず、これまで支えてこられた家族や地域住民の皆様方、関係機関のご尽力など、多くの皆様方のご理解ご協力の賜であり、深く感謝申し上げます。



2 高千穂町の紹介

高千穂町は九州山地のほぼ中央部、宮崎県の最北端に位置し、町の中心部を五ヶ瀬川が西北から南東にかけて貫流し、途中、名勝天然記念物高千穂峡が神秘的かつ雄大な風景を創出しています。

気候は、平地の標高が約300メートル以上で夏・冬の気温差が大きく、四季の変化に富み自然環境が春の新緑、秋の紅葉となって観光資源の一環を成しています。

高千穂の起源は古く、古代遺跡の発掘や多くの出土品等の遺物により、紀元前4000年頃から集落が作られたと推定されております。一方、天の岩戸開きや天孫降臨などの神話の舞台としても知られています。秋の収穫が終わると、その年の収穫のお礼と翌年の五穀豊穡を祈願して各村々で夜神楽が夜を徹して舞われます。



基幹産業は農林業であり、標高差を利用した棚田や段々畑が広がり、日本の原風景の情緒を醸し出すとともに、そこで生産された農産物は味にも定評があります。畜産も盛んに行われ、当地区で生産された子牛を求めて全国から家畜商が来町しております。先に開催された和牛のオリンピックと呼ばれる全国和牛能力共進会において、当地区のブランド牛である『高千穂牛』が内閣総理大臣賞を受賞、おいしさ日本一の称号を獲得しました。高千穂をご観光の際は、是非ご賞味ください。

3 消防団の紹介

高千穂町消防団は昭和22年5月の消防団令公布により発足し、今日まで地域防災の要として活動を行ってきました。現在は5分団、団員数385名（うち女性消防団5名）で町民の生命、身体、財産を守るため、春と秋の防火訓練や夏期の操法訓練、梅雨時や台風等風水害を想定した避難誘導や広報活動等の防災訓練、年始の出初式へ向けた礼式訓練や夜警、あるいは、年間を通じた火災はもとより、搜索など多種多様な地域防災活動を行っています。

災害対応としては、近年は幸いに人的被害が伴う大災害は発生しておりませんが、全国的に大規模災害が頻発し、いつ激甚的な災害に見舞われるかわからない状況にあります。そのような中、土砂災害・全国統一防災訓練にあわせて、自衛隊を交えた避難誘導訓練を毎年実施しており、災害に対しての備えをしているところです。

操法大会においては、長年の念願かなって平成26年の全国消防操法大会に自動車ポンプの部で出場し、その機運が高まり平成30年大

会への連続出場を果たしております。団員減少等、課題はありますが、操法訓練の意義を確認しながら鋭意努力をしています。

団員確保については、少子・高齢化による人口減少のため団員減少を余儀なくされており、分団の統合や管轄区域の見直しを行ったところです。しかしながら、将来にわたっての団員確保という課題は今後ますます顕著に表れてくることが予想されております。私たち消防団員は自らの地域は自らで守るため、町民の生命、身体、財産を守るために今後も研鑽を重ねて参ります。

4 おわりに

近年、災害は複雑多様化、大規模化しており、地震や風水害、火山等の大規模な災害が毎年のように発生しております。そのような中、全国的に消防団の役割の重要性が再認識されており、高千穂町消防団においても、その存在感や町民からの期待感が高まってきております。この度の『まとい』受賞は私ども消防団員はもとより高千穂町民の誇りであります。この受賞に慢心することなく、さらに町民の期待に添うべく、消防の使命並びに重要性を再確認し、消防技術の錬磨に努めるとともに、奉仕的精神を堅持し、災害等から町民の生命、身体、財産を守り、付託に添えるよう一層精進して参ります。

最後に、この度の『まとい』受賞にあたり、格別なご高配を賜りました日本消防協会をはじめ、宮崎県、宮崎県消防協会並びに消防防災関係機関各位の皆様へ深く感謝を申し上げますとともに、今後ますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げ受賞の挨拶とさせていただきます。



「持続可能な消防団を 目指して」

加東市消防団 団長 井上 正義



1 加東市の紹介

加東市は、兵庫県中央部よりやや南に位置し、旧加東郡3町「社町」「滝野町」「東条町」が、平成18年3月20日に合併して発足しました。市の西部には一級河川である「加古川」が南北に流れ、河川の周囲には田畑が広がっています。東部には山間部が多く、多数のゴルフ場や「東条湖おもちゃ王国」があり、休日には市外からお越しになる方も多く見られます。

観光においては、国宝である「朝光寺」やSNSで話題となった引退ポストがある「播州清水寺」などの歴史的・文化的遺産があります。昨年には県立播磨中央公園に全国トップクラスの長さを誇るサイクリングロードが開設されるなど、新たな観光資源の開発に力を入れています。

2 加東市消防団について

平成18年の市町村合併により、旧3町の消防団が合併し、現在の加東市消防団が発足しました。加東市消防団には、加東市を12の区域に分割した「小隊」という独自の区分があり、12の小隊に計75の分団が属しています。管轄区域は分団毎に設定せず、小隊毎に定めているため、火災発生時には管轄の小隊を中心とした複数の分団で消火活動にあたります。そのため、小隊内での連携は特に重要視しており、年に一度、小隊単位で訓練を実施しています。また、75分団とは別に機能別分団を設置しており、広報活動を中心として活動する女性分団「ポラリス」や、平日昼間帯の消防力強化を目的とした「市役所分団」「平木特設分団」があります。

団員の条例定数は1,269人で、現在(令和6年4月1日)の団員数は機能別分団を含めて1,110人です。



出初式(分列行進)の様子



訓練の様子



操法大会の様子

3 消防団の活動について

火災時の消火活動以外には、水害時の水防活動や行方不明者の搜索活動も行っています。前述のような有事の際以外では、各分団に配備された消防車両及び資機材の点検、それらを活用した訓練や警戒活動を行っています。

また、消防団の行事として、例年4月に開催する出初式や6月には市の操法大会、春・秋に全国で実施される火災予防運動での啓発活動、年末に実施する夜間警戒などがあります。

4 加東市消防団の課題

当消防団に限らず多くの消防団で共通する課題であると思いますが、何よりも団員数の減少と高齢化です。都市部に移住したり、市外遠方で勤務したりする方が増えている昨今、ほとんどの分団において、新入団員の確保が課題となっています。新入団員が確保できない分団においては、活動する団員の固定化、ひいては高齢化が進んでおり、団員数の減少と合わせて、消防団組織の弱体化、地域防災力の低下を危惧する声も耳にします。

加東市消防団ではこれまでに、火災防ぎょ訓練の実施を操法大会への出場の替わりとする制度(代替訓練制度)の導入や、

支給する装備品の拡充など、団員や地域への負担軽減や活動環境の整備を図っているところではありますが、団員数の減少に歯止めをかける根本的な解決には至っていないのが現状であります。

そのような状況の中、団員数が減少し単独での活動が困難となっている分団の合併や、市内全域での活動が可能な団員で構成された特別機動隊の新設、消防団活動支援アプリを利用した組織運営のICT化など、持続可能な組織の運営方法を模索しているところであります。

5 終わりに

近年は、能登半島地震をはじめとした、甚大な被害をもたらす自然災害が頻発しており、地域防災力の中核を担い地域の安全・安心を守る「消防団」の役割は以前にも増して大きくなっています。

近年、市内には外国籍の方が増えており、昨年も、加東市に移住してきた外国籍の方が新入団員として入団してくれました。男女・国籍の区別なく「郷土愛護」の精神を持つすべての人が、「消防団に入りたい」「この消防団で活動し続けたい」と思えるような組織を目指して、これからも地域に密着した消防団活動を行っていきたいと思います。



「自分たちのまちは 自分たちで守る」



大村市消防団 団長 田中 研太郎

1 大村市の紹介

大村市は長崎県のほぼ中央に位置し、東に多良山系を仰ぎ、西に波静かな大村湾を望むことができ、自然豊かな風景が数多く広がるまちです。県内で唯一人口が増加し続ける都市であり、人口99,510人となり、10万人を目指してカウントダウンを開始しています。世界初の海上空港である長崎空港、高速道路ICがあり、令和4年には西九州新幹線が開業し、交通利便性の良さから、さらなる発展が期待されています。

2 大村市消防団の紹介

大村市消防団は団本部と15個分団で構成されており、565名の団員で活動を行っています。主な装備は消防ポンプ車15台、小型ポンプ積載車13台、小型可搬ポンプ10台を装備しています。火災発生時には、常備消防である県央地域広域市町村圏組合消防本部の指揮の下、消火活動にあたっ

ています。分団同士の団結も強く、日頃から合同訓練を実施し、管轄区域以外での火災等では管轄区域を超えて連携を行い、市民の安心・安全を守るために活動しています。

3 大村市消防団の活動

大村市消防団では、4月は大村警察署の協力を得て団員を対象に、消防車両の運転技術の向上及び夜間運転の特性を学ぶ緊急車両安全運転講習会を実施しています。また、6月には梅雨時期の大雨による河川の氾濫を想定し、水防訓練を実施し、水防工法の技術向上に努めています。そして、7月には大村消防署の協力の下、昇任した幹部団員及び新入団員を対象に、教養、車両取扱、ホース延長等を習得する夏季特別教養訓練を実施し、11月には市内15個分団が一堂に集まり、放水競技大会を開催し、消防用機械器具の取扱い及び操作技術の向上に努めてい



Vファーレン長崎コラボPR活動の様子



長崎空港航空機事故対処総合訓練の様子



出初式一斉放水の様子



放水競技大会の様子

ます。その他にも毎年恒例の出初式、春季火災想定訓練や市内の各イベントでのPR活動など年間を通じて様々な活動に取り組んでいます。

4 おわりに

消防団員が減少し、団員を確保することが困難になってきています。本市では若手団員同士が自由に意見を出せる場を設けて、そこで出た団員の意見をもとに団員確保に向けて効果的な活動や処遇改善等を検討しているところです。一方で、消防団が担う役割は大きく、近年では自然災害が多発し、特に大雨、台風においては毎年、日本各地で甚大な被害をもた

らしています。本市においても令和2年7月に豪雨災害が発生し、観測開始以来最大となる雨量を観測しました。市内各地でがけ崩れや浸水が発生し、多くの団員が地域の警戒巡視に当たり、発生した災害の応急対応に努めました。災害がいつ発生しても身の安全を確保しつつ迅速に対応する必要があります。そのためには有事の際のみならず日頃から危機感や防災意識をもって消防団員一人一人が消防団活動に取り組む必要があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を胸に今後も消防防災における地域のリーダーとして市民の安全・安心を守るために努めていく所存であります。



「継承！ 防災に強い街作りを 目指して」



始良市消防団 団長 三宅 利秋

1 始良市の紹介

はじめに、元日、東日本大震災を想起させる最大震度7の大地震が能登半島で発生し、石川県を中心に多くの尊い命が失われ、また、9月には、大雨災害が能登半島を襲い多くの方が犠牲となりました。改めまして喪心よりご冥福をお祈りいたします。

甚大な被害をもたらす大地震や津波、さらに大火、大雨など複合災害の恐ろしさを改めて実感するとともに、犠牲となられた方のご冥福と被災地の一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

始良市は、薩摩半島と大隅半島の分岐点、鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、南は県都鹿児島市、西に薩摩川内市、東に霧島市と隣接しております。

市の人口は令和に入ってから右肩上がりで増加しており、鹿児島県下で転入超過数が最も多い自治体となっており、「住みたい」、「住み心地が良い」、「子育てしたい」と若者世代に人気の自治体です。市の



総面積は、231.25km²で、鹿児島県総面積の2.5%を占めています。

古い歴史と文化に育まれた始良市の指定文化財は県下で一番多く、伝統芸能や文化遺産などの文化財が数多く残されています。

また、樹齢約1,500年と推定される日本一の巨樹「蒲生の大クス」で有名な「蒲生八幡神社」、日露戦争に従軍した人の帰還を記念して建てられた希少で珍しい石造りの「山田の凱旋門」、日本の滝百選に選ばれている「龍門滝」など歴史あふれる名所や豊かな自然に恵まれています。

2 始良市消防団の紹介

始良市消防団は、平成22年3月23日に始良郡の始良町・加治木町・蒲生町の3町の合併により、1団本部、3方面隊、15分団、30部、条例定数541名で発足しました。

令和6年4月1日現在の団員数は、479名(女性団員30名)、主な消防団装備については、多機能型消防車2台、消防ポンプ車は14台、小型動力ポンプ付き積載車23台、小型動力ポンプ38台を保有し、火災等の災害に備え活動をしています。

3 始良市消防団の活動

始良市消防団の活動は、4月に任命式、6月には消防団新人訓練、出水期前には水防工法訓練、秋の火災予防運動週間に

併せて、各方面隊に属する分団による合同訓練及び火災予防啓発活動、1月には消防出初式、春の火災予防運動週間に併せて隣接市の消防団との訓練といった活動を実施しています。また、今年度から、近年の災害は激甚化・頻発化し、各地で甚大な被害が発生していることから、地域住民を守る消防団員として、HUG（避難所運営ゲーム）訓練を実施し、災害時の避難所運営に携われるよう訓練を行っております。

この他にも、火災予防広報活動、各方面隊で計画される機関員訓練、各種イベントでの放水訓練等などの活動をしています。

令和に入り、本市においては大きな災害等は発生していませんが、いついかなる時に災害が発生しても迅速に対応できるよう継続して訓練を行っていきたいと考えております。

4 おわりに

今後、少子化及び超高齢化社会を迎えるにあたり、消防団員のサラリーマン化・高齢化により、消防団員数の減少が全国的にも問題視されています。始良市にお



機関員訓練

いても、人口は右肩上がりに増加しているものの、消防団員は微増に留まり条例定数には満たない状況にあります。

また、このような中、若い団員も増え、阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震等の様々な災害が襲った「平成」から我々が学び、発展させてきたことを「令和」の時代を支える若い消防団員に、この災害で得た知識・経験・技術等を継承していきたいと思っております。

結びに、我々消防団員が活躍できるのは、家族や職場等の理解があつてのものです。このことを忘れずに、「市民が安全で安心して暮らせる地域社会の実現」に向けて始良市消防団一丸となり活動していきたいと思います。



秋季火災予防運動における消防団・本部合同訓練



シンフォニー（愛媛県） 「未来を見据えた一歩」

今治市消防団 今治方面隊女性部 副分団長 桑村 広子

1 今治市の紹介

今治市は、愛媛県の北東部・瀬戸内海のほぼ中心に位置し、広島県尾道市と結ばれるしまなみ海道は「サイクリストの聖地」として広く存在が知れ渡り、素晴らしい多島美を堪能できます。また、「今治タオル」ブランド商品は多くの著名人が愛用するなど、優れた品質と信頼性で海外からも高い評価を得ています。

2 今治市消防団について

令和6年4月1日現在、1,995名（実員）1本部12方面隊51分団（機能別分団含む）で構成され、「自分らの地域は、自分らが守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域により密着した活動を行い、市民の「安全・安心」に寄与しています。

私たちの所属する今治方面隊女性部は、平成14年6月に団員13名で発足し、翌15年には16名の入団があり、総勢29名から活動を開始して23年目となる現在は17名の団員が在籍しています。

消防団活動は毎月開催する定例会で年間行事計画等との調整を図り、様々な消防団行事に参加しています。主な活動は、消防出初式や年末夜警、春・秋の火災予防運動では職員とともに地域密着した活動を行っています。

3 結成10年：「カラーガード隊」の結成

きっかけは、平成22年に開催された「第16回全国女性消防団員活性化奈良大会」のオープニングセレモニーでのことでした。音楽隊とコラボレーションしたカラーガード隊の華麗に舞うフラッグ演技に一瞬で魅了され、私は「これをやる！」と決意し、直帰するや否や団員と話し合い、カラーガード隊を結成する運びとなりました。

現在は、平成30年7月豪雨、新型コロナ等の影響で休隊していますが、多くの市民に親しまれ、応援していただいた「今治市消防団カラーガード隊」です。再度、火災予防、防火広報及び女性消防団加入促進に繋がるPR活動を行いたいと思います。



『笑顔で勝負』カラーガード隊

4 結成20年：愛媛県代表「第25回全国女性消防操法大会出場」

消防職員から突然、令和2年開催予定の全国女性操法大会へ出場しましょうと依頼があり、躊躇なく「Yes」と返答した

後に、次々と不安要素が浮かび、先ず20代で入団した団員も今は40代、選手選考は恐怖を感じました。しかし、令和元年の第24回大会（横浜）視察で女性出場隊が熱い戦いを繰り広げており、間近で見た団員は感動のあまり身震いし、さらに士気が上がりました。

そんな矢先、令和2年に新型コロナウイルスが猛威を振るい「緊急事態宣言」が発出され大会は3年間の延期、団員は年齢を重ねると同時に、体力・モチベーションを保つことが非常に厳しい状態でしたが、チームが一丸となり見事入賞を果たしました。

これもひとえにサポートしていただいた全ての皆様に感謝いたします。



消防操法大会

5 今後の活動について

操法大会を終え一息つきたいところですが、私たちはいつ起こるか分からない

災害に向けて取り組むことがあります。「アレのアレ」です。つい先日も日向灘で地震が発生し、南海トラフ巨大地震への注意を呼びかける「臨時情報」が初めて発表されました。消防団は、消火活動や救助活動を行う力強さも必要ですが、女性ならではの視点で、きめ細やかな活動も必要とされています。

そこで私たちは、『未来を見据えた一歩』として、防災士の資格取得を目指し、「自助・共助・協働」の基礎知識を身につけ、地域防災力の向上の要となる自主防災組織と連携協力して「災害に強いまちづくり」の実現を目指したいと思っています。

6 おわりに

近年、大きく社会的変化を認める中、消防団の喫緊の課題として団員減少があります。こうした難しい時代だからこそ、私たちも時代に合わせて臨機応変に対応しなければなりません。今日まで多くの先輩方が積み重ね、築き上げてきた経験や知識を大切にしながら、そこに新たな風を吹き込み、これまでの「強い」消防団らしさに加えて、時代に合わせた「しなやかさ」を持ち、これからもみなさんと一緒に成長し、邁進してまいります。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。



一斉放水式



消防団の活動を知ってもらうために

鳥取県 米子市消防団

1 米子市消防団の紹介

米子市は、山陰のほぼ中央、鳥取県の西部に位置し、大山や日本海に囲まれ自然環境に恵まれた街です。道路、鉄道、空港などの利便性も高く、古くから地域の交通結節点・宿泊拠点、人の行き来が盛んな「山陰の商都」として栄えてきました。

米子市消防団は1団4ブロック28分団で構成され487名(R6. 11. 1時点)の団員が活動しており、女性や子ども、学生、外国人などの多様な人材を受け入れ、地域住民の生命、財産を守るため日々奮闘をしています。その積極的な活動が認められ、今年3月に消防庁長官から「消防団員等地域活動表彰」を授与されました。

現在、条例定数の9割近い数の団員が在籍しているものの、地域の人口減少の波が進むにつれて、減少していく団員数の歯止めをかけていくことが課題となっています。

2 加入促進の取り組み

米子市消防団の活動を地域の方にも知ってもらい消防団員の加入促進に繋げるため、次のことに取り組んでいます。

○日野川総合水防演習

令和6年5月25日に鳥取県西部を流れる一級河川日野川で開催された国土交通省主催の総合水防演習に参加し、河川での越水対策、洗堀対策などを行い、地域住民の皆様に日頃の訓練の成果を披露することで、地域災害リスクに対する消防団の役割を広く知ってもらいました。

○少年消防クラブ

米子市では、小学校4年生から中学校3年生までの男女を対象に、防災に関する学習や地域における防火啓発活動に参加する少年消防クラブを結成しており、人命救助訓練や規律訓練を行い、地域防災力の重要性を養いながら将来の地域防災リーダーとして育成を行っています。

昨年度は、全国少年消防クラブ交流大会が米子市で開催され、全国における知名度の向上を図るとともに、



全国少年消防クラブ交流大会



少年消防クラブの活動に関心をもってもらうことで、加入を促進し、未来の消防団員の育成につなげていきたいと考えています。

○地域イベントへの参加

地域で開催されるイベントに消防団員が参加し、消防車両の展示や乗車体験、救命講習コーナーなどを設けて防災に触れながら消防団に親しんでもらい、消防団の活動をPRしています。

○市報紙の掲載

米子市の広報紙に、米子市消防団の特集記事を掲載し、消防団の活動を紹介し、消防団の役割や意義を発信しています。

3 今後の展望

新たな消防団活動としてドローンの配備を計画しており、将来的には導入数を増やすなど積極的な運用を行うことで、特に若い世代に消防団の活動に興味を持ってもらい、加入促進につなげていきたいと考えています。

消防団員の数は、地域防災力の指数であると考えています。人口減少をしていくなかでもこの地域防災力を維持し続けるために、今後も消防団の魅力の発信に努めてまいります。



出初式



操法大会



消防団魅力発信!!

～徳島市消防団の新たな取り組み～

徳島県 徳島市消防団 団長 賀好 宏文

1 徳島市消防団の現状

徳島市消防団は、1本部、19分団5班と、広報啓発班及び機能別により構成され、条例による団員定数は774人と規定されています。

全国的に消防団員数の減少が進む中、当市においても同様に減少し、平成30年には充足率が80.5%となっていました。

このような中、消防団長に就任(令和3年度)以降の新たな取り組みをすることにより、令和6年9月1日現在、684人が在籍し、充足率は88.4%と増加傾向にあります。

2 加入促進事例

(1) 大学と連携した入団促進活動

令和4年度に総務省消防庁の「消防団の力向上モデル事業」を活用し、大学生によるステージイベントや消防車による放水体験、AED・救命処置体験等の消防防災イベント「団フェス」を開催したことにより、機能別団員の年度内入団者が過去最高を記録しました。

また、消防団員から当該イベントのような入団促進活動を継続したいとの要望もあり、令和5年度については、管内の2大学と連携し、当該イベントの体験ブースを継承する内容として、大学祭に来場した大学生や地域住民に消防団をより身近に感じてもらうことで消防団活動に対する理解の醸成と入団促進を図りました。特に機能別団員の活動に興味を示す大学生等が多く、大学祭の前後において10人程度の入団志願書の提出がありました。

このような実績を踏まえ、令和6年度についても大学等と連携した入団促進活動を継続いたします。



大学と連携した入団促進活動

(2) 消防団PRムービーの制作

当市消防団で活動する4人の消防団員にフォーカスを当て、消防団PRムービー「あなたの笑顔が「ちから」になる。」を制作し、総務省消防庁主催の令和4年度消防団PRムービーコンテストにおいて最優秀賞を受賞しました。

このPRムービーを当市公式SNS等を活用して広く発信するとともに、当市HPにも掲載し、消防団の魅力をPRすることにより入団促進を図っています。

【動画公開場所(総務省消防庁動画チャンネル(YouTube))】

<https://www.youtube.com/channel/UCdjKaS60W5FQ5ckSj1vrGmw>

「あなたの笑顔が「ちから」になる。」

(令和4年度消防団PRムービーコンテスト最優秀賞)



(3) 学生消防団活動認証制度

当市では、平成30年4月から大学生等が消防団員として地域社会へ貢献した功績を市長が認証し、就職活動を支援することを目的に「徳島市学生消防団活動認証制度」の運用を行っており、制度運用から5年が経過し、認証実績も増加したことから、市内に所在する5つの経済団体を通じて、各加盟事業所へ本制度の運用について周知いただくとともに、学生消防団員等から企業へ「認証証明書」の提出があった場合、積極的な評価をいただけるよう依頼しました。

(4) 郵便局と連携した消防団への入団説明会

総務省消防庁の「郵便局と連携した消防団への入団説明会」事業を活用したもので、地域社会と緊密な関係を持つ日本郵便株式会社の社員への消防団活動に対する理解の醸成と入団促進の契機となる新たな取組みとなりました。



郵便局と連携した消防団への入団説明会

(5) その他の加入促進への取組み

上記の取組み以外にも、消防団協力事業所表示制度の普及を図り、被雇用者である消防団員が活動しやすい環境整備など処遇の改善にも取り組んでいます。

また、将来の消防団担い手育成のため、小学校や児童クラブなどに消防団員が出向き、生徒や児童等に対する防災教育にも取り組んでいます。

更に、常備消防と連携した消防カーニバル等の消防防災イベントにおいても、来場者に対して積極的に消防団への入団を促進しています。

特に若者に迅速に情報を受け取ってもらえるようQRコード付入団促進リーフレットを作成し、消防防災イベントで配布しているほか、管内の大学や大型ショッピングモールに依頼をし、配置しています。

また、新聞紙の折り込みチラシと併せて各家庭に届けられる当市広報誌「広報とくしま」に消防団員募集の記事を掲載するとともにケーブルテレビやラジオでも消防団をPRするなど、消防団への入団を促進しています。



消防団フェス
(消防団の力向上モデル事業)



3 今後の展開

社会情勢の変化、消防団の役割の多様化等、消防団を取り巻く環境が変化する中、魅力ある消防団づくりに努め、特に若者を中心とした入団を促進するため、当市の新たな取組み等を継続していくとともに、先進他都市の入団促進事例を参考として、今後も消防団員の確保に努めて参ります。

消防団の現況

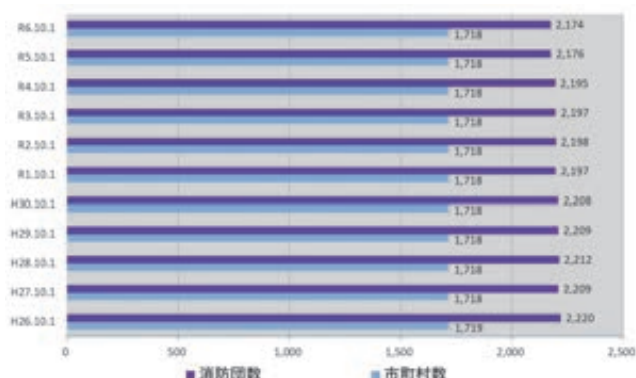
(公財)日本消防協会

① 消防団数の動向

平成10年代は、平成の合併に伴う消防団の統合などで減少が続いていましたが、平成20年代に入ると合併も一段落したことから、消防団数の減少幅は年々縮小傾向となっています。

令和5年は2,176団(前年比19団減少)、令和6年は2,174団(前年比2団減少)となっています。

【表1】



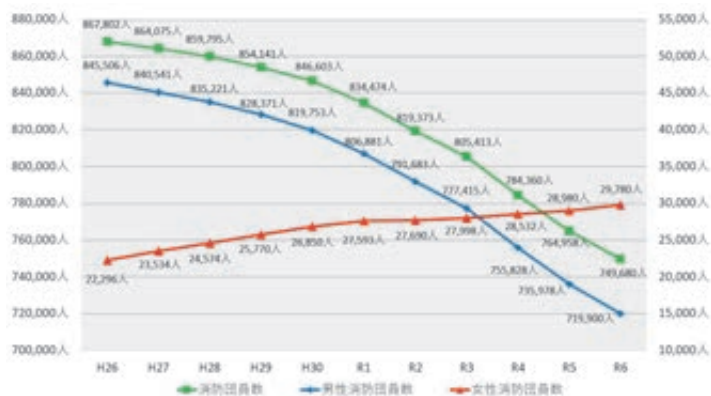
【表1】市町村数及び消防団数の推移
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)

② 消防団員数の動向

消防団員数は、社会環境の変化(少子高齢化による若年層の減少、就業構造の変化、地域社会への帰属意識の希薄化等)から減少が続いています。

令和6年の消防団員数は、749,680人であり、前年に比べ15,278人減少しています。女性消防団員は増加傾向にあるものの、全体としては平成26年以降10年間で118,122人減少、うち令和元年からの5年間で84,794人の減少となっています。

【表2・表3】



【表2】消防団員数の推移
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)

このように毎年、団員数は全国的に減少傾向にあるなかで、様々な消防団員確保(消防団への加入促進、消防団の処遇改善、消防団の装備・教育訓練の充実等)に取り組んでおります。昨年は1県で消防団員数が増加し、今年は2県で消防団員が増加しました。

なお、令和6年の定員に対する充足率は86.1%で令和5年の86.7%と比較して0.6ポイント低下しました。【表4】



【表3】消防団員数減少数及び減少率の推移
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)



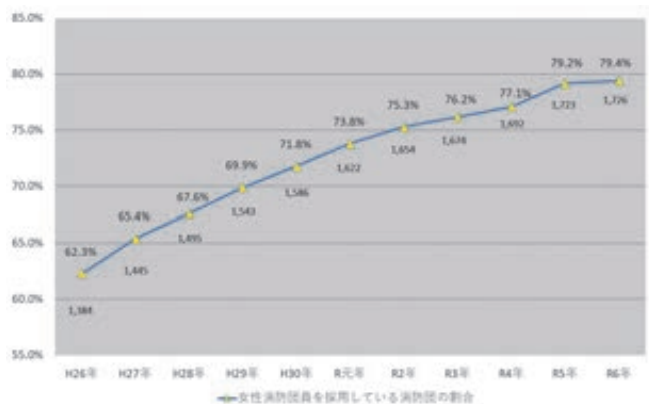
【表4】消防団員数充足率の推移
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)

③ 女性消防団員

女性消防団員を採用している消防団は年々増加しており、令和6年は1,726団（全消防団の79.4%）で、前年より3団増えています。【表5】

地域の安心・安全の確保に対する住民の関心の高まりなどを背景に女性消防団員の活動も多様化しており、災害時における後方支援活動、住宅用火災警報器の設置促進、火災予防の普及啓発、住民に対する防災教育・応急手当指導等、多岐にわたって活躍しています。

また、近年では、女性消防団員も各分団に所属し火災現場での消火活動など基本的に男女問わず同じ活動を行う消防団も増加しています。



【表5】女性消防団を採用している消防団数及び割合の推移
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)

令和6年秋の消防関係叙勲及び褒章伝達式

総務省消防庁

◇秋の叙勲(消防関係)

令和6年秋の叙勲が11月3日付で発令され、全国の3,987名に授与されました。

そのうち、消防関係では永年にわたり国民の生命等を火災等の災害から防御し、消防力の充実強化に尽力された計619名が受章し、11月13日(水)、ニッショーホール(東京都港区虎ノ門)において伝達式を開催しました。

なお、勲章別の受章者数は次のとおりです。

令和6年秋の叙勲

瑞宝小綬章	33名
旭日双光章	4名
瑞宝双光章	65名
瑞宝単光章	517名
計	619名



村上総務大臣から受章代表への
勲記・勲章伝達
(秋の叙勲伝達式)



受章者代表から謝辞を受ける
村上総務大臣
(秋の叙勲伝達式)

◇秋の褒章(消防関係)

令和6年秋の褒章が11月3日付で発令され、全国の812名に授与されました。

そのうち、消防関係では、自己の危難を顧みず人命救助に尽力された方、永年にわたり消防機器の研究開発や製造販売業務、消防設備保守業務等に精励し、業界の発展に大きく寄与された方々、消防団員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し消防の発展に大きく寄与された方々、計109名が受章し、11月14日(木)、中央合同庁舎2号館(総務省)において伝達式を開催しました。

なお、褒章別の受章者数は次のとおりです。

令和6年秋の褒章

紅綬褒章	1名
黄綬褒章	6名
藍綬褒章	102名
計	109名



富樫総務副大臣から受章者代表への
章記・褒章伝達
(秋の褒章伝達式)



富樫総務副大臣による式辞
(秋の褒章伝達式)

それぞれの伝達式では、伝達者(秋の叙勲伝達式及び危険業務従事者叙勲伝達式は村上総務大臣、秋の褒章伝達式は富樫総務副大臣)から受章者代表へ勲記及び勲章(章記及び褒章)が手渡されました。

受章者代表から「地域住民の安全確保のため、なお一層尽力」する旨の誓いの言葉を含めた謝辞が述べられました。

式典後、受章者は皇居において天皇陛下に拝謁されました。

令和6年秋の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 小	北 海 道	元 北見地区消防組合 消防正監	岡 田 雅 裕 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合標茶消防団 分団長	麻 野 孝 行 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 留萌消防組合留萌 消防団 分団長	今 野 義 幸 (67)	男
瑞 双	北 海 道	元 夕張市消防団 団長	阿 部 広 昭 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 帯広市消防団 分団長	池 守 辰 美 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合羅臼消防団 副分団長	塚 正 利 (76)	男
瑞 双	北 海 道	元 斜里地区消防組合 斜里消防団 団長	五十嵐 一 彦 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合赤平消防 団分団長	石 野 茂 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合長 沼消防団 団長	坂 下 一 彦 (68)	男
瑞 双	北 海 道	元 札幌市 消防正監	上 田 孝 志 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 団分団長	梅 野 恭 正 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 網走地区消防組合 女満別消防団 分団長	佐々木 繁 治 (69)	男
瑞 双	北 海 道	元 北留萌消防組合初 山別村消防団 団長	小林 清 秀 (69)	男	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 穂別消防団 分団長	大 頭 龍 一 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 富良野広域連合中 富良野消防団 副団長	佐々木 玄 明 (66)	男
瑞 双	北 海 道	元 南館市南茅部消防 団 団長	坂 井 満 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 札幌市中央消防団 副団長	大 沼 幹 夫 (78)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路広域行政組合 乙部町消防団 分団長	笹 谷 正 行 (81)	男
瑞 双	北 海 道	元 北見地区消防組合 常呂消防団 団長	田 崎 正 彰 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合標津消防団 副団長	小 場 宏 (68)	男	瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 副分団長	佐 藤 一 雄 (72)	男
瑞 双	北 海 道	元 西根振行政事務組 合洞爺湖消防団 団長	寺 島 勉 (80)	男	瑞 単	北 海 道	元 日高西部消防組合 日高消防団 副分団長	加 藤 喜 義 (76)	男	瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組 合北斗消防団 団長	澤 岡 信 行 (73)	男
瑞 双	北 海 道	元 日高中部消防組合 三石消防団 団長	西 島 裕 (75)	男	瑞 単	北 海 道	元 渡島西部広域事務 組合木古内消防団 分団長	加 藤 昇 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合蘭越消防団 副団長	志比川 武 (73)	男
瑞 双	北 海 道	元 北見地区消防組合 留辺蘂消防団 団長	野 尻 裕 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防 事務組合石狩消防 団分団長	上 山 稔 彦 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 浦幌町消防団 分団長	菅 原 公 一 (73)	男
瑞 双	北 海 道	元 新得町新得消防団 団長	廣 瀬 嗣 嗣 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路市消防団 分団長	小 島 光 男 (79)	男	瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 副分団長	鈴木 輝 夫 (79)	男
瑞 双	北 海 道	元 南宗谷消防組合中 頓別消防団 団長	安 川 裕 一 (76)	男	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 分団長	後 藤 龍太郎 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 陸別消防団 副団長	高 橋 榮 一 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合芦別消防 団副団長	田 川 吉 栄 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路広域行政組合 上ノ国町消防団 分団長	森 義 博 (86)	男	瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	小 川 貢 男 (75)	男
瑞 単	北 海 道	元 苫小牧市消防団 分団長	竹 本 尚 悦 (68)	男	瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組合 北竜消防団 団長	山 岸 正 俊 (81)	男	瑞 単	青 森 県	元 十和田市消防団 副団長	土 藤 文 夫 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 上川北部消防事務 組合喜蔵子消防 団副団長	立 川 政 俊 (69)	男	瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合 北見消防団 分団長	山 中 繁 (79)	男	瑞 単	青 森 県	元 大間町消防団 副分団長	熊 谷 謙 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 土幌消防団 分団長	谷 本 仁 志 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合 北見消防団 副団長	吉 村 利 光 (72)	男	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 分団長	佐 藤 武 則 (77)	男
瑞 単	北 海 道	元 岩内、寿都地方消 防組合寿都消防団 副団長	寺 門 義 博 (76)	男	瑞 単	北 海 道	元 札幌市北消防団 団長	渡 邊 國 善 (79)	男	瑞 単	青 森 県	元 六戸町消防団 分団長	下 田 裕 孝 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 日高東部消防組合 えりも町消防団 分団長	富 野 三 仁 (70)	男	瑞 双	青 森 県	元 むつ市消防団 団長	木 下 俊 悦 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 横浜町消防団 分団長	瀬 川 清 美 (75)	男
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合積 丹消防団 分団長	能代谷 政 敏 (78)	男	瑞 双	青 森 県	元 黒石市消防団 団長	土 藤 清 明 (69)	男	瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 副団長	高 橋 博 (70)	男
瑞 単	北 海 道	元 苫小牧市消防団 副分団長	野 村 浩 二 (68)	男	瑞 双	青 森 県	元 南部町消防団 団長	西 村 茂 (69)	男	瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	高 山 利 男 (74)	男
瑞 単	北 海 道	元 中札内村消防団 副団長	廣 瀬 智 雄 (71)	男	瑞 双	青 森 県	元 田子町消防団 団長	村 木 勉 (71)	男	瑞 単	青 森 県	元 東通村消防団 分団長	竹 林 豊 松 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 釧路広域行政組合 今金町消防団 分団長	藤 倉 久 雄 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 陸上町消防団 副団長	荒 谷 清 志 (72)	男	瑞 単	青 森 県	元 東北町消防団 副団長	田 嶋 勝 則 (70)	男
瑞 単	北 海 道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻富士町消 防団分団長	前 田 芳 久 (77)	男	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	伊 藤 喜代志 (73)	男	瑞 単	青 森 県	元 平内町消防団 副団長	千代谷 誠 司 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合 置戸消防団 分団長	松 岡 精 一 (77)	男	瑞 単	青 森 県	元 むつ市消防団 副団長	大 浦 藤 義 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 十和田市消防団 分団長	畑 山 重 男 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	青 森 県	元 つがる市消防団 副団長	福 士 精 一 (69)	男
瑞 単	青 森 県	元 西目屋村消防団 団長	山 崎 清 則 (69)	男
瑞 小	岩 手 県	元 盛岡地区広域消防 組合消防正監	長 岡 利 明 (71)	男
瑞 双	岩 手 県	元 大横町消防団 団長	越 田 政 美 (77)	男
瑞 双	岩 手 県	元 野田村消防団 団長	武 文 文 雄 (75)	男
瑞 単	岩 手 県	元 雫石町消防団 副団長	青 石 秀 樹 (74)	男
瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 副団長	伊 藤 壽 雄 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 八幡平市消防団 分団長	井 上 徳 治 (75)	男
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	岩 渕 新 助 (75)	男
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 副分団長	岩 渕 武 志 (80)	男
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	梅 村 昭 親 (81)	男
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 副分団長	大 下 悦 保 (80)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 副団長	太 田 薫 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 軽米町消防団 副団長	大谷地 房 男 (68)	男
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 分団長	加 藤 京 (75)	男
瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	川 原 一 文 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 副団長	菊 池 悟 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 分団長	齊 藤 博 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 副団長	作 山 良 樹 (69)	男
瑞 単	岩 手 県	元 湯田町消防団 副分団長	佐 藤 清 一 (81)	男
瑞 単	岩 手 県	元 奥州市消防団 分団長	鈴 木 晃 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 室根村消防団 分団長	鈴 木 一 雄 (83)	男
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 副団長	高 橋 静 男 (75)	男
瑞 単	岩 手 県	元 雫石町消防団 分団長	高 橋 久 美 (77)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 分団長	高 村 康 夫 (71)	男
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 分団長	千 葉 泰 孝 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 副分団長	藤 倉 高 志 (76)	男
瑞 単	岩 手 県	元 滝沢村消防団 副団長	太 野 軍 (81)	男
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 副団長	替 川 孝太郎 (76)	男
瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 副団長	女 鹿 廣 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 洋野町消防団 副分団長	吉 田 稔 (76)	男
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 副団長	西 役 利 治 (77)	男
瑞 小	宮 城 県	元 大崎地域広域行政 事務組合 消防正監	北 館 善 裕 (70)	男
瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	沼 倉 勝 則 (70)	男
瑞 双	宮 城 県	元 名取市消防団 分団長	加 藤 治 (71)	男
瑞 双	宮 城 県	元 登米市消防団 団長	菅 原 英 義 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市太白消防団 副団長	相 原 総 悦 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 大和町消防団 分団長	安 海 正 雄 (77)	男
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市消防団 副団長	阿 部 常 一 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市太白消防団 副団長	安 齋 政 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 加美町消防団 副団長	板 垣 幸 雄 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	伊 藤 正 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 川崎町消防団 分団長	大 宮 康 一 (77)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市太白消防団 副団長	小 池 仁 市 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	後 藤 正 弘 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	金 誠 一 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 副団長	笹 原 太賀雄 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 分団長	佐 藤 男 (76)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	宮 城 県	元 白石市消防団 分団長	佐 藤 時 男 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	菅 原 幸 一 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 村田町消防団 分団長	鈴 木 健 治 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 利府町消防団 分団長	鈴 木 俊 一 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 南三陸町消防団 分団長	高 橋 貞 喜 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 涌谷町消防団 分団長	畑 岡 永 耕 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市泉消防団 副団長	早 坂 高 雄 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 柴田町消防団 団長	平 間 泰 夫 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 分団長	細 川 仁 (72)	男
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	松 浦 恒 夫 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市消防団 副団長	松 川 恵 洋 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 美里町消防団 分団長	和 聖 正 廣 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	秋 田 県	元 秋田市 消防正監	小 林 博 美 (70)	男
瑞 単	秋 田 県	元 八郎潟町消防団 分団長	伊 藤 洋 一 (71)	男
瑞 単	秋 田 県	元 仙北市消防団 分団長	大 友 熊 夫 (77)	男
瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 分団長	加 藤 慶 記 (73)	男
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	加 藤 元 (71)	男
瑞 単	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 副団長	金 子 嘉 博 (72)	男
瑞 単	秋 田 県	元 横手市平鹿消防団 副団長	国 安 孝 夫 (69)	男
瑞 単	秋 田 県	元 鹿角市消防団 副団長	児 玉 忠 幸 (68)	男
瑞 単	秋 田 県	元 八郎潟町消防団 副団長	小 林 浩 二 (71)	男
瑞 単	秋 田 県	元 潟上市消防団 分団長	菅 原 昭 雄 (76)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	杉 山 竹 義 (76)	男
瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 副団長	高橋 弥左門 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	武 内 一 博 (75)	男	瑞 双	山 形 県	元 最上町消防団 団長	富 澤 秀 好 (67)	男	瑞 単	福 島 県	元 昭和村消防団 分団長	菅 家 敏 章 (77)	男
瑞 単	秋 田 県	元 八峰町消防団 分団長	田 村 利 満 (76)	男	瑞 単	山 形 県	元 河北町消防団 団長	芦 野 喜 昭 (67)	男	瑞 単	福 島 県	元 国見町消防団 分団長	木 村 正 義 (77)	男
瑞 単	秋 田 県	元 北秋田市消防団 団長	戸 島 丈 夫 (70)	男	瑞 単	山 形 県	元 遊佐町消防団 分団長	池 田 龍 介 (66)	男	瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 副分団長	小 山 高 行 (64)	男
瑞 単	秋 田 県	元 北秋田市消防団 分団長	長 岐 兼 雄 (70)	男	瑞 単	山 形 県	元 鶴岡市消防団 分団長	板 垣 貢 (67)	男	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	坂 田 亞 洋 (81)	男
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 分団長	橋 本 浩 成 (74)	男	瑞 単	山 形 県	元 真室川町消防団 分団長	伊 藤 勝 憲 (65)	男	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	白 石 一 美 (64)	男
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	藤 嶋 俊 彦 (71)	男	瑞 単	山 形 県	元 新庄市消防団 分団長	佐 藤 長 治 (65)	男	瑞 単	福 島 県	元 白河市消防団 副団長	鈴 木 正 (66)	男
瑞 単	秋 田 県	元 横手市横手消防団 分団長	増 田 修 次 (78)	男	瑞 単	山 形 県	元 大石町消防団 分団長	村 岡 真 也 (65)	男	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	田 牧 浩 (64)	男
瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	三 政 薫 (72)	男	瑞 双	福 島 県	元 三春町消防団 団長	橋 本 善 次 (74)	男	瑞 単	福 島 県	元 梁川町消防団 分団長	三 浦 利 夫 (80)	男
瑞 単	秋 田 県	元 北秋田市消防団 分団長	村 上 俊 久 (72)	男	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	向 部 正 和 (76)	男	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	渡 邊 精 一 (75)	男
瑞 単	秋 田 県	元 八峰町消防団 分団長	諸 澤 達 雄 (77)	男	瑞 単	福 島 県	元 相馬市消防団 分団長	荒 雄 一 (64)	男	瑞 単	福 島 県	元 川内村消防団 分団長	渡 邊 弘 一 (72)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	山 内 隆 一 (72)	男	瑞 単	福 島 県	元 会津若松市消防団 分団長	猪 瀬 光 吉 (76)	男	瑞 小	茨 城 県	元 ひたちなか・東海 広域事務組合 消防正監	川 崎 靖 夫 (70)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	渡 邊 定 治 (74)	男	瑞 単	福 島 県	元 鏡石町消防団 団長	大河原 正 雄 (75)	男	瑞 小	茨 城 県	元 稲敷地方広域市町村 圏事務組合 消防正監	酒 井 健 生 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	茨 城 県	元 鹿行広域事務組合 消防正監	木 内 清 志 (70)	男	瑞 単	栃 木 県	元 那須烏山市消防団 副団長	小 川 清 (73)	男	瑞 小	埼 玉 県	元 草加市 消防正監	石 塚 光 宣 (70)	男
瑞 双	茨 城 県	元 常総市消防団 団長	寺 田 富次郎 (73)	男	瑞 単	栃 木 県	元 那須塩原市塩原消防団 団長	君 島 正 三 (72)	男	瑞 小	埼 玉 県	元 川越地区消防組合 消防正監	大久保 愛一郎 (70)	男
瑞 双	茨 城 県	元 結城市消防団 団長	廣 江 一 夫 (77)	男	瑞 単	栃 木 県	元 小山市消防団 分団長	車 塚 利 夫 (72)	男	瑞 小	埼 玉 県	元 さいたま市 消防正監	小 山 吉 男 (72)	男
瑞 双	茨 城 県	元 茨西市消防団 団長	宮 川 昌 己 (74)	男	瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 副団長	小 島 孝 夫 (71)	男	瑞 小	埼 玉 県	元 埼玉県中央広域事務 組合 消防正監	坂 本 静 男 (70)	男
瑞 単	茨 城 県	元 茨城町消防団 副団長	印出井 利 美 (75)	男	瑞 単	栃 木 県	元 茂木町消防団 団長	杉 山 久 雄 (71)	男	瑞 双	埼 玉 県	元 蕨市消防団 団長	白 岩 芳 洋 (76)	男
瑞 単	茨 城 県	元 常総市消防団 副団長	大 坂 勇 男 (68)	男	瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	寺 内 貢 (72)	男	瑞 双	埼 玉 県	元 熊谷市 消防正監	須 賀 忠 (71)	男
瑞 単	茨 城 県	元 茨西市消防団 副団長	栗 保 (76)	男	瑞 小	群 馬 県	元 伊勢崎市 消防正監	吉 田 純 一 (70)	男	瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 副分団長	飯 田 哲 司 (74)	男
瑞 単	茨 城 県	元 神栖市消防団 副団長	津久浦 哲 男 (65)	男	瑞 単	群 馬 県	元 みどり市消防団 団長	石 原 勉 (64)	男	瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 分団長	石 井 和 秋 (73)	男
瑞 単	茨 城 県	元 古河市消防団 副団長	藤 井 清 (67)	男	瑞 単	群 馬 県	元 白沢村消防団 分団長	岡 村 忠 雄 (74)	男	瑞 単	埼 玉 県	元 三郷市消防団 副団長	石 出 忠 正 (68)	男
瑞 単	茨 城 県	元 北茨城市消防団 分団長	村 田 福 次 (81)	男	瑞 単	群 馬 県	元 上野村消防団 分団長	櫻 井 清 司 (73)	男	瑞 単	埼 玉 県	元 比企広域市町村圏 組合東松山消防団 副団長	江 原 修 平 (73)	男
瑞 単	茨 城 県	元 つくば市消防団 副団長	柳 澤 幹 男 (71)	男	瑞 単	群 馬 県	元 高崎市消防団 団長	須 藤 欣 司 (64)	男	瑞 単	埼 玉 県	元 西入間広域消防組 合越生消防団 団長	小 林 孝 夫 (64)	男
瑞 小	栃 木 県	元 宇都宮市 消防正監	小 池 正 則 (70)	男	瑞 単	群 馬 県	元 前橋市消防団 分団長	山 田 吉 久 (72)	男	瑞 単	埼 玉 県	元 戸田市消防団 団長	清 水 稔 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	埼 玉 県	元 草加市消防団 分団長	内 藤 一 夫 (70)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 秩父市消防団 副団長	水 田 勝 美 (65)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 飯能消防団 団長	梨 木 幹 雄 (65)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 分団長	藤 井 章 (70)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 分団長	矢 野 悦 一 (78)	男
瑞 小	千 葉 県	元 成田市 消防正監	内 田 廣 (70)	男
瑞 小	千 葉 県	元 市川市 消防正監	鈴 木 富 雄 (70)	男
瑞 小	千 葉 県	元 千葉市 消防司監	和 田 雅 巳 (70)	男
瑞 双	千 葉 県	元 富里市消防団 団長	秋 葉 政 則 (68)	男
瑞 双	千 葉 県	元 九十九里町消防団 団長	古 川 克 俊 (69)	男
瑞 双	千 葉 県	元 千葉市消防団 副団長	星 野 力 蔵 (74)	男
瑞 単	千 葉 県	元 御宿町消防団 団長	井 上 峰 男 (65)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	千 葉 県	元 香取広城市町村聯合事務組合香取市消防団 副団長	久保木 新 司 (68)	男
瑞 単	千 葉 県	元 八千代市消防団 団長	高 橋 章 夫 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 市川市消防団 団長	高 橋 廣 孝 (65)	男
瑞 単	千 葉 県	元 勝浦市消防団 副団長	谷 郁 男 (68)	男
瑞 双	東 京 都	元 本郷消防団 団長	石 井 宏 (70)	男
瑞 双	東 京 都	元 王子消防団 団長	榎 本 清 実 (75)	男
瑞 双	東 京 都	元 日本橋消防団 団長	志 村 榮 一 (74)	男
瑞 双	東 京 都	元 本所消防団 団長	箕 輪 善 康 (70)	男
瑞 双	東 京 都	元 臨港消防団 団長	村 山 茂 也 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 町田市消防団 副団長	阿 部 孝 之 (69)	男
瑞 単	東 京 都	元 志村消防団 副団長	池 田 好 男 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 江戸川消防団 分団長	及 川 勉 (76)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	東 京 都	元 丸の内消防団 副団長	大 沢 一 宏 (66)	男
瑞 単	東 京 都	元 大井消防団 副団長	倉 本 佳 明 (78)	男
瑞 単	東 京 都	元 牛込消防団 副団長	小 坂 敏 男 (75)	男
瑞 単	東 京 都	元 府中市消防団 副団長	佐 伯 正 (73)	男
瑞 単	東 京 都	元 荻窪消防団 団長	須 藤 英 夫 (70)	男
瑞 単	東 京 都	元 大森消防団 副団長	出 川 喜 義 (80)	男
瑞 単	東 京 都	元 武蔵野市消防団 分団長	中 野 良 一 (64)	男
瑞 単	東 京 都	元 足立消防団 副団長	長 原 範 充 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 荒川消防団 副団長	廣 田 丈 司 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 中野消防団 副団長	平 井 敏 夫 (75)	男
瑞 単	東 京 都	元 品川消防団 団長	平 野 哲 男 (75)	男
瑞 単	東 京 都	元 目黒消防団 団長	三 木 廣 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	東 京 都	元 四谷消防団 分団長	水 野 功 一 (80)	男
瑞 単	東 京 都	元 日野市消防団 副団長	宮 崎 精 太 (76)	男
瑞 単	東 京 都	元 本田消防団 団長	宮 島 一 壽 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 向島消防団 副団長	務 基 博 (74)	男
瑞 単	東 京 都	元 尾久消防団 副団長	村 松 恒 圭 (72)	男
瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防司監	荒 井 守 (70)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 厚木市 消防正監	飯 島 悟 (70)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市港北消防団 団長	飯 田 孝 彦 (70)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市 消防正監	内 田 謙 一 (72)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜伊勢佐木消防団 団長	水 田 二 朗 (73)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 平塚市消防団 団長	二 宮 敏 郎 (70)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜栄消防団 団長	増 田 明 彦 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	神 奈 川 県	元 真鶴町消防団 団長	森 下 賢 (64)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 分団長	相 川 勇 (77)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 大和市消防団 団長	井 上 貴 雄 (68)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市高津消防団 副分団長	河 西 良 則 (85)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 相模原市城山消防団 団長	北 島 彰 (65)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市泉消防団 副分団長	小 島 重 成 (82)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 開成町消防団 団長	桜 井 正 春 (71)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 相模原市相模湖消防団 団長	佐々木 祐 司 (68)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市臨港消防団 副分団長	栗 崎 政 久 (74)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市戸塚消防団 団長	鈴 木 進 (74)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 逗子市消防団 分団長	鈴 木 元 一郎 (76)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市宮前消防団 分団長	中 里 達 男 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市中原消防団 分団長	中 村 雅 樹 (83)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市旭消防団 分団長	星 野 吉 二 (85)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市幸消防団 分団長	松 井 満 (72)	男
瑞 小	新 潟 県	元 新潟市 消防正監	波多野 和 哉 (70)	男
瑞 単	新 潟 県	元 松代町消防団 団長	市 川 嘉 吉 (76)	男
瑞 単	新 潟 県	元 新発田市消防団 副団長	伊 藤 誠 一 (65)	男
瑞 単	新 潟 県	元 上川村消防団 副団長	猪 守 好 (75)	男
瑞 単	新 潟 県	元 柏崎市消防団 分団長	尾 崎 清 信 (76)	男
瑞 単	新 潟 県	元 村上市消防団 副団長	加 藤 安 登 (69)	男
瑞 単	新 潟 県	元 加茂市消防団 分団長	近 藤 清三郎 (80)	男
瑞 単	新 潟 県	元 上越市消防団 副分団長	須 藤 幸 雄 (72)	男
瑞 単	新 潟 県	元 魚沼市消防団 副団長	友 野 浩 (66)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	新 潟 県	元 長岡市消防団 副団長	波 形 正 広 (66)	男
瑞 単	新 潟 県	元 柿崎町消防団 副団長	平 野 誠 市 (74)	男
瑞 単	新 潟 県	元 佐渡市消防団 副団長	藤 井 徹 (76)	男
瑞 単	新 潟 県	元 糸魚川市消防団 分団長	水 澤 政 雄 (75)	男
瑞 単	新 潟 県	元 新潟市消防団 副団長	渡 邨 正 登 (65)	男
瑞 単	富 山 県	元 立山町消防団 副団長	北 村 章 (73)	男
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 分団長	深 田 敏 雄 (75)	男
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 分団長	小 西 陽 一 (77)	男
瑞 単	富 山 県	元 黒部市消防団 分団長	神 島 典 志美 (77)	男
瑞 単	富 山 県	元 高岡市消防団 副分団長	谷 之 純 (78)	男
瑞 単	富 山 県	元 魚津市消防団 分団長	辻 裕 裕 司 (75)	男
瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 分団長	長谷川 孝 蕃 (77)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 分団長	深 山 浩 市 (83)	男
瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 副団長	前 川 伸 吉 (73)	男
瑞 単	富 山 県	元 上市町消防団 分団長	町 田 勝 久 (72)	男
瑞 単	富 山 県	元 舟橋村消防団 副団長	明 和 毅 (69)	男
瑞 単	富 山 県	元 高岡市消防団 分団長	山 田 雅 和 (74)	男
瑞 単	富 山 県	元 小矢部市消防団 分団長	吉 川 行 夫 (72)	男
瑞 小	石 川 県	元 金沢市 消防正監	山 田 弘 (70)	男
瑞 単	石 川 県	元 輪島市消防団 副団長	岡 本 真 雄 (72)	男
瑞 単	石 川 県	元 野々市市消防団 団長	清水 一 男 (70)	男
瑞 単	石 川 県	元 かほく市消防団 副団長	寺 口 武 義 (72)	男
瑞 単	石 川 県	元 七尾市第1消防団 分団長	本 田 裕 昭 (76)	男
瑞 単	石 川 県	元 穴水町消防団 副団長	米 田 直 樹 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	福 井 県	元 福井市 消防正監	塚 本 政 敏 (70)	男
瑞 単	福 井 県	元 嶺北消防組合坂井 消防団 団長	田 嶋 留 三 (73)	男
瑞 単	福 井 県	元 大野市消防団 副団長	水 尻 交 二 (71)	男
瑞 単	福 井 県	元 嶺北消防組合あわ ら消防団 副団長	山 口 和 夫 (77)	男
瑞 単	山 梨 県	元 小菅村消防団 団長	木 下 正 之 (69)	男
瑞 単	山 梨 県	元 上野原市消防団 副団長	佐 藤 孝 義 (70)	男
瑞 単	山 梨 県	元 甲府市消防団 分団長	佐 野 昭 (82)	男
瑞 単	山 梨 県	元 上野原市消防団 団長	萩 原 敏 彦 (68)	男
瑞 単	山 梨 県	元 早川町消防団 分団長	深 沢 正 晴 (73)	男
瑞 双	長 野 県	元 長野市消防団 団長	松 木 道 夫 (69)	男
瑞 単	長 野 県	元 小川村消防団 団長	鎌 倉 一 夫 (67)	男
瑞 単	長 野 県	元 下諏訪町消防団 団長	清水 正 (65)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	長 野 県	元 松本市消防団 分団長	田 中 健 司 (62)	男
瑞 単	長 野 県	元 上松町消防団 団長	古 屋 恒 晴 (61)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 下呂市消防団 団長	石 藤 拓 実 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 中津川市軽川消防 団 団長	板 津 隆 志 (65)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 下呂市消防団 副団長	今 井 孝 孝 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	佐 藤 浩 二 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	嶋 田 敏 彦 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 分団長	下 本 剛 夫 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 関市消防団 副団長	吉 田 正 年 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 飛騨市消防団 分団長	宮 腰 健 彦 (64)	男
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	秋 山 勲 (67)	男
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	石 川 和 彦 (66)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 分団長	市 川 敏 男 (69)	男
瑞 単	静 岡 県	元 三島市消防団 分団長	内 田 忠 昭 (71)	男
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	佐 野 健 吾 (65)	男
瑞 単	静 岡 県	元 熱海市消防団 副団長	藤 田 法 彦 (66)	男
瑞 双	愛 知 県	元 春日井市 消防正監	伊 藤 敬 (70)	男
瑞 双	愛 知 県	元 江南市消防団 団長	後 藤 雅 臣 (68)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市中心消防 団 団長	伊 藤 友 久 (76)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市中島消防 団 団長	岩 田 信 雄 (78)	男
瑞 単	愛 知 県	元 安城市消防団 団長	奥 谷 重 夫 (75)	男
瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 分団長	丹 下 恒 雄 (63)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市中島消防 団 団長	西 川 克 彦 (76)	男
瑞 単	愛 知 県	元 一宮市一宮消防団 分団長	野 田 徳 雄 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	愛 知 県	元 一宮市一宮消防団 副分団長	本 郷 紀 行 (71)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市中心消防 団 団長	脇 田 弘 美 (76)	男
瑞 単	三 重 県	元 鈴鹿市消防団 分団長	一 尾 芳 治 (77)	男
瑞 単	三 重 県	元 津市消防団 副団長	小 野 政 久 (64)	男
瑞 単	三 重 県	元 御浜町消防団 団長	崎 久保 文 隆 (77)	男
瑞 単	三 重 県	元 熊野市消防団 分団長	瀬 本 吉 也 (70)	男
瑞 単	三 重 県	元 桑名市消防団 分団長	牧 野 義 勝 (82)	男
瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 副分団長	結 野 芳 剛 (74)	男
瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 副分団長	渡 邊 与四郎 (80)	男
瑞 小	滋 賀 県	元 湖南広域行政組合 消防正監	三 上 民 喜 (70)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 長浜市消防団 副団長	泉 啓 三 (63)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 長浜市消防団 分団長	岩 崎 秀 司 (86)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	倉 田 松 隆 (68)	男	瑞 小	大 阪 府	元 枚方寝屋川消防組合 消防正監	岡 本 治 康 (70)	男	瑞 小	兵 庫 県	元 尼崎市 消防正監	本 田 良 生 (70)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	杉 山 広 次 (66)	男	瑞 小	大 阪 府	元 泉州南消防組合 消防正監	根 来 芳 一 (70)	男	瑞 双	兵 庫 県	元 養父市消防団 団長	福 妻 広 之 (70)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 草津市消防団 団長	中 村 幸 範 (63)	男	瑞 双	大 阪 府	元 四條畷市消防団 団長	井 井 隆 也 (78)	男	瑞 双	兵 庫 県	元 宝塚市消防団 団長	辰 家 宏 弥 (70)	男
瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	西 村 常 男 (76)	男	瑞 単	大 阪 府	元 摂津市消防団 分団長	稲 尾 信 夫 (82)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	荒 内 浩 治 (64)	男
瑞 双	京 都 府	元 舞鶴市南消防団 団長	小 山 勝 巳 (70)	男	瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 団長	奥 田 善 孝 (74)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市但東消防団 副団長	石 田 一 幸 (64)	男
瑞 単	京 都 府	元 京田辺市消防団 団長	岡 嶋 二 晃 (68)	男	瑞 単	大 阪 府	元 太子町消防団 団長	楠 本 肇 (62)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	福 岡 正 樹 (66)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 分団長	國 治 治一郎 (76)	男	瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 副団長	塚 口 俊 治 (74)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 東条町消防団 分団長	井 上 克 弥 (72)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市右京消防団 分団長	廣 田 勉 (75)	男	瑞 単	大 阪 府	元 松原市消防団 副団長	中 尾 博 (75)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路東消防団 分団長	井 上 英 明 (73)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	深 尾 博 之 (77)	男	瑞 単	大 阪 府	元 高槻市消防団 副団長	平 野 英 明 (75)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路東消防団 分団長	大 量 近 良 (74)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市上京消防団 分団長	宮 城 喜 男 (76)	男	瑞 単	大 阪 府	元 阪南市消防団 副団長	増 田 豊 (73)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 篠山市消防団 副団長	尾 垣 春 夫 (67)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都府伊根町消防団 団長	村 井 英 敏 (64)	男	瑞 単	大 阪 府	元 河内長野市消防団 副団長	山 中 茂 男 (72)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	小 川 成 人 (64)	男
瑞 単	京 都 府	元 南丹市消防団 副団長	八 木 治 (64)	男	瑞 単	大 阪 府	元 枚方市消防団 団長	山 本 正 夫 (74)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 副分団長	里 内 英 也 (83)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市城崎消防団 副団長	岸 田 政 則 (65)	男	瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 分団長	宮 前 利 治 (74)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 伯耆町消防団 団長	木 村 浩 (70)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市豊岡消防団 副団長	鞍 留 賢 司 (77)	男	瑞 単	奈 良 県	元 大和高田市消防団 団長	宮 本 則 次 (70)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 副団長	谷 田 稔 (70)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 分団長	河 野 重 員 (74)	男	瑞 単	奈 良 県	元 十津川村消防団 副分団長	森 下 弘 一 (71)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 副団長	谷 本 寛 幸 (65)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 三田市消防団 分団長	眞 造 達 夫 (73)	男	瑞 単	奈 良 県	元 田原本町消防団 副団長	吉 岡 文 和 (70)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 八頭町消防団 団長	福 本 道 孝 (73)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市飾磨消防団 分団長	高 井 太 三 (76)	男	瑞 単	和 歌 山 県	元 広川町消防団 副団長	上 野 幸 良 (64)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 松江市消防団 副団長	石 原 弘 一 (71)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市中央消防団 副団長	島 田 政 雄 (77)	男	瑞 単	和 歌 山 県	元 新宮市消防団 分団長	岡 崎 武 人 (73)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 松江市消防団 副団長	板 花 建 男 (71)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 副分団長	福 岡 通 (64)	男	瑞 単	和 歌 山 県	元 御坊市消防団 分団長	阪 本 敬 一 (69)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 浜田市消防団 分団長	大 庭 義 信 (81)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	古 田 輝 信 (65)	男	瑞 単	和 歌 山 県	元 海南市消防団 分団長	瀧 保 好 博 (69)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 大田市消防団 分団長	金 藤 繁 行 (71)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	松 本 光 泰 (77)	男	瑞 単	和 歌 山 県	元 白浜町消防団 副団長	山 原 嗣 晋 (68)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 出雲市消防団 副団長	竹 下 忠 幸 (66)	男
瑞 単	奈 良 県	元 三宅町消防団 副団長	糸 井 直 嗣 (77)	男	瑞 単	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 団長	古 井 友 久 (75)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 安来市消防団 副団長	鶴 原 徹 (67)	男
瑞 単	奈 良 県	元 下北山村消防団 副分団長	竹 本 容 大 (74)	男	瑞 小	鳥 取 県	元 鳥取県西部広域行政 管理組合 消防正監	武 本 和 之 (70)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 浜田市消防団 分団長	東 條 宏 (77)	男
瑞 単	奈 良 県	元 五條市消防団 副団長	東 秀 一 (65)	男	瑞 双	鳥 取 県	元 日南町消防団 団長	木 山 宗 司 (73)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 益田市消防団 副団長	原 木 勝 美 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	岡 山 県	元 岡山市 消防正監	置 野 太 治 (70)	男	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	前 田 亨 (69)	男	瑞 単	広 島 県	元 安芸太田町消防団 分団長	沖 段 琢 磨 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	青 江 和 義 (67)	男	瑞 単	岡 山 県	元 和気町消防団 副団長	松 本 哲 行 (64)	男	瑞 単	広 島 県	元 坂町消防団 団長	車 地 健 二 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 高梁市消防団 分団長	大 田 博 信 (64)	男	瑞 単	岡 山 県	元 笠岡市消防団 分団長	守 屋 和 政 (64)	男	瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 部長	久留 孝 信 (76)	男
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	影 山 宏 司 (64)	男	瑞 単	岡 山 県	元 西粟倉村消防団 団長	山 本 道 明 (64)	男	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	道 田 等 (71)	男
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 分団長	加 藤 友 茂 (71)	男	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	若 狭 弘 英 (66)	男	瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 分団長	美 森 雪 夫 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	金 本 栄 治 (64)	男	瑞 小	広 島 県	元 福山地区消防組合 消防正監	牧 平 健 児 (70)	男	瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 分団長	中 山 博 雅 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 西粟倉村消防団 団長	金 田 穂 積 (64)	男	瑞 双	広 島 県	元 筒賀村消防団 団長	池 田 徹 (70)	男	瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	原 田 秀 則 (71)	男
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	龜 山 基 (67)	男	瑞 双	広 島 県	元 福山地区消防組合 消防正監	大 畠 功 之 (70)	男	瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 分団長	東 弘 仁 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	田 中 利 朗 (67)	男	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	青 本 正 克 (71)	男	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	福 南 義 明 (71)	男
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 副団長	寺 坂 昇 治 (64)	男	瑞 単	広 島 県	元 安芸高田市消防団 副団長	泉 恒 之 (70)	男	瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐南消防 団分団長	細 澤 正 博 (87)	男
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 副団長	信 安 恒 入 (71)	男	瑞 単	広 島 県	元 廿日市市消防団 副団長	胡 芳 宏 (71)	男	瑞 単	広 島 県	元 広島市安芸消防団 分団長	松 田 耕 治 (75)	男
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 副団長	別 所 正 敏 (67)	男	瑞 単	広 島 県	元 福山市消防団 分団長	岡 田 哲 之 (70)	男	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	岡 山 観 志 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	広 島 県	元 広島市佐伯消防団 分団長	森 垣 真 (75)	男	瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 副団長	田 中 作 治 (74)	男	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	上 原 勉 (83)	男
瑞 単	広 島 県	元 竹原市消防団 副分団長	矢田部 秋 夫 (70)	男	瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	徳 田 文 雄 (75)	男	瑞 単	香 川 県	元 三豊市消防団 分団長	大 石 守 洋 (80)	男
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	山 本 能 義 (70)	男	瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	中 野 康 世 (74)	男	瑞 単	香 川 県	元 多度津町消防団 副団長	大 島 竹 雄 (72)	男
瑞 単	広 島 県	元 安芸高田市消防団 分団長	行 竹 眞 悟 (74)	男	瑞 単	山 口 県	元 大島町消防団 分団長	中 元 正 紀 (83)	男	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	加 藤 一 男 (78)	男
瑞 小	山 口 県	元 岩国地区消防組合 消防正監	國 清 弘 (70)	男	瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	原 壽 治 (74)	男	瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 団長	川 田 昌 和 (65)	男
瑞 小	山 口 県	元 宇部・山陽小野田 消防組合 消防正監	杉 野 嘉 裕 (70)	男	瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 副団長	藤 本 康一朗 (73)	男	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	川 並 豊 (84)	男
瑞 双	山 口 県	元 周南市消防団 団長	神 本 康 雅 (71)	男	瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 分団長	政 崎 茂 弘 (64)	男	瑞 単	香 川 県	元 宇多津町消防団 副団長	北 本 実 (71)	男
瑞 単	山 口 県	元 下関市消防団 副団長	伊 藤 文 雄 (68)	男	瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団 分団長	三 藤 進 (69)	男	瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 副団長	楠 正 秋 (72)	男
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	金 子 和 司 (75)	男	瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	浦 本 清 (76)	男	瑞 単	香 川 県	元 まんのう町消防団 副団長	佐 野 藤 一 (67)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	兼 城 通 安 (74)	男	瑞 双	徳 島 県	元 吉野川市消防団 団長	瀬 尾 誠 悟 (71)	男	瑞 単	香 川 県	元 善通寺市消防団 分団長	奈 良 廣 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	上 風 呂 恵 (73)	男	瑞 単	徳 島 県	元 勝浦町消防団 団長	生 家 道 雄 (70)	男	瑞 単	香 川 県	元 観音寺市消防団 副分団長	橋 本 稔 (79)	男
瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 分団長	河 村 則 彦 (64)	男	瑞 単	徳 島 県	元 吉野川市消防団 副団長	新 居 孝 司 (71)	男	瑞 単	香 川 県	元 綾上町消防団 分団長	森 一 夫 (84)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	愛 媛 県	元 松山市 消防司監	木 下 秀 紀 (70)	男	瑞 双	高 知 県	元 いの町消防団 団長	別 役 隆 雄 (81)	男	瑞 単	福 岡 県	元 築上町消防団 分団長	有 元 年 春 (76)	男
瑞 双	愛 媛 県	元 伊予市消防団 団長	松 下 豊 繁 (66)	男	瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合榑原 消防団 副分団長	川 上 源 伸 (68)	男	瑞 単	福 岡 県	元 飯塚市消防団 分団長	有 吉 俊 治 (75)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 分団長	大 塚 逸 郎 (81)	男	瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合東津 野消防団 副分団長	竹 崎 居 記 (72)	男	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市戸畑消防 団 団長	上 村 次 吉 (72)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 副団長	越 智 要 (74)	男	瑞 単	高 知 県	元 南国市消防団 団長	棚 橋 正 志 (68)	男	瑞 単	福 岡 県	元 田川市消防団 分団長	梶 原 孝 文 (70)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 西條市消防団 分団長	越 智 喜和男 (81)	男	瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	田 内 健 一 (73)	男	瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 副団長	北 原 慶司朗 (64)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	小 野 博 (79)	男	瑞 単	高 知 県	元 四万十市消防団 分団長	土 居 愛 明 (69)	男	瑞 単	福 岡 県	元 赤村消防団 分団長	依 英 彦 (83)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 西予市消防団 団長	佐 伯 喜 喜 (65)	男	瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合須崎 消防団 分団長	松 浦 英 彦 (67)	男	瑞 単	福 岡 県	元 小竹町消防団 分団長	山 本 徳 規 (66)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 東温市消防団 分団長	酒 井 源 雄 (67)	男	瑞 単	高 知 県	元 香美市消防団 副団長	松 村 純 爾 (83)	男	瑞 単	福 岡 県	元 嘉麻市消防団 分団長	中 島 清 (68)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 伊予市消防団 分団長	玉 井 公 明 (68)	男	瑞 単	高 知 県	元 越知町消防団 副団長	山 本 明 (71)	男	瑞 単	福 岡 県	元 八女市消防団 副団長	西 村 博 文 (66)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 砥部町消防団 副団長	吉 村 正 美 (66)	男	瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防正監	濱 根 二 (70)	男	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市門司消防 団 分団長	羽 場 英 賀 (73)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	渡 部 康 夫 (72)	男	瑞 双	福 岡 県	元 鞍手町消防団 団長	石 田 隆 信 (72)	男	瑞 単	福 岡 県	元 上毛町消防団 分団長	藤 本 久 雄 (75)	男
瑞 双	高 知 県	元 高幡消防組合中土 佐消防団 団長	楊 岡 敏 雄 (76)	男	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市中央消防団 分団長	有 住 光 臣 (75)	男	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防 団 分団長	松 井 清 憲 (79)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 岡 県	元 直方市消防団 分団長	松 原 和 浩 (64)	男	瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 副団長	眞 崎 喜 隆 (72)	男	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	永 田 武 男 (80)	男
瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 分団長	松 本 良 明 (77)	男	瑞 単	佐 賀 県	元 有田町消防団 副団長	山 下 義 則 (65)	男	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	西 村 正 廣 (80)	男
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市若松消防 団 分団長	三 根 文 夫 (74)	男	瑞 単	佐 賀 県	元 鳥栖市消防団 副分団長	山 科 満 隆 (75)	男	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	藤 本 勇 太 郎 (75)	男
瑞 単	福 岡 県	元 直方市消防団 分団長	村 上 篤 (65)	男	瑞 小	長 崎 県	元 県央地域広域市町 村圏組合 消防正監	中 島 秀 義 (70)	男	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	松 尾 隆 (75)	男
瑞 単	福 岡 県	元 香春町消防団 分団長	山 田 康 宏 (66)	男	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 団長	赤 木 行 秀 (72)	男	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	松 永 初 彦 (70)	男
瑞 単	福 岡 県	元 みやこ町消防団 分団長	山 野 和 明 (76)	男	瑞 単	長 崎 県	元 平戸市消防団 副団長	井 元 伸 治 (67)	男	瑞 単	長 崎 県	元 対馬市消防団 副団長	松 本 平 治 (65)	男
瑞 双	佐 賀 県	元 杵築地区広域市町 村圏組合 消防正監	松 尾 敏 光 (70)	男	瑞 単	長 崎 県	元 五島市消防団 副団長	今 利 進 一 郎 (70)	男	瑞 単	長 崎 県	元 西海市消防団 副団長	水 谷 正 生 (73)	男
瑞 双	佐 賀 県	元 佐賀中部広域連合 消防正監	吉 岡 孝 之 (70)	男	瑞 単	長 崎 県	元 新上五島町消防団 副団長	植 村 徳 一 郎 (66)	男	瑞 単	長 崎 県	元 平戸市消防団 副団長	吉 永 武 利 (67)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 唐津市北波多消防 団 副団長	金 丸 正 志 (73)	男	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	浦 英 二 (70)	男	瑞 小	熊 本 県	元 天草広域連合消防 正監	島 羽瀬 博 文 (70)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 副団長	川 島 義 和 (74)	男	瑞 単	長 崎 県	元 苓岐市消防団 副団長	江 口 豊 次 (70)	男	瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 分団長	植 村 博 和 (67)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 分団長	磯 井 徳 幸 (66)	男	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副分団長	須 崎 近 (79)	男	瑞 単	熊 本 県	元 阿蘇市消防団 団長	梅 野 孝 徳 (64)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 有田町消防団 分団長	藤 本 公 也 (65)	男	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	都知 木 孝 明 (75)	男	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	大 塚 明 彦 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	熊 本 県	元 西原村消防団 分団長	古 岡 昭 輝 (70)	男	瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 副分団長	田 中 信 行 (75)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 南九州市消防団 副団長	川 原 隆 男 (74)	男
瑞 単	熊 本 県	元 長洲町消防団 団長	高 松 浩 範 (64)	男	瑞 単	大 分 県	元 臼杵市消防団 分団長	廣 瀬 昭 一 (70)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 さつま町消防団 副団長	城 戸 伸 二 (69)	男
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	仁 田 信 二 (72)	男	瑞 単	大 分 県	元 日田市消防団 副団長	矢 野 剛 行 (68)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 南さつま市消防団 分団長	田 代 政 孝 (80)	男
瑞 単	熊 本 県	元 八代市消防団 副団長	松 岡 俊 英 (69)	男	瑞 単	大 分 県	元 豊後大野市消防団 副団長	山 村 利 貞 (69)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 副団長	田 中 清 美 (70)	男
瑞 単	熊 本 県	元 苓北町消防団 団長	松 本 健 吾 (64)	男	瑞 単	大 分 県	元 豊後高田市消防団 分団長	渡 部 義 昭 (72)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	弟子丸 宗 一 (74)	男
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	宮 崎 忠 憲 (75)	男	瑞 双	宮 崎 県	元 門川町消防団 団長	江 川 武 光 (67)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 副団長	中 國 真 一 (67)	男
瑞 単	熊 本 県	元 水俣市消防団 分団長	山 田 秀 幸 (66)	男	瑞 双	宮 崎 県	元 日向市消防団 団長	日 高 繁 憲 (70)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	中 間 正 志 (70)	男
瑞 単	熊 本 県	元 高森町消防団 団長	渡 邊 博 実 (67)	男	瑞 単	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 分団長	川 越 正 彦 (68)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 団長	中 村 徹 男 (71)	男
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	井 上 静 雄 (74)	男	瑞 単	宮 崎 県	元 五ヶ瀬町消防団 団長	興 格 雄 二 (66)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 南さつま市消防団 分団長	中 村 吉 信 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 分団長	江 藤 宏 治 (70)	男	瑞 双	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 団長	荒 平 純 昭 (79)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	橋 口 幸 一 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 副団長	河 野 裕 裕 (70)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 湧水町消防団 副団長	飯 屋 隆 一 (74)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 南さつま市消防団 副分団長	林 昭 孝 (78)	男
瑞 単	大 分 県	元 九重町消防団 分団長	清 竹 和 広 (65)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 屋久町消防団 副団長	川 崎 靖 男 (85)	男	瑞 単	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 副団長	石 純 一 (68)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	鹿 児 島 県	元 東串良町消防団 団長	松 田 重 美 (69)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 南大隅町消防団 副団長	宮 川 次 男 (72)	男
瑞 双	東 京 都	元 消防庁消防大学校 消防研究センター 火災英害調査部長	古 積 博 (74)	男
旭 双	岐 阜 県	現 (一財) 岐阜県消 防設備協会 副会長	松 村 公 夫 (72)	男
旭 双	沖 縄 県	元 (一社) 沖縄県消 防設備協会 理事長	大 城 英 雄 (81)	男
旭 双	滋 賀 県	現 滋賀県女性防火ク ラブ連絡協議会 会長	山 田 光 代 (71)	女
旭 双	秋 田 県	現 (一社) 秋田県危 険物安全協会連合 会長	瑞 本 真 木 夫 (73)	男

令和6年秋の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 女満別消防団 副団長	佐々木 清 治 (70)	男	藍 綬	茨 城 県	現 結城市消防団 団長	稲 葉 英 夫 (67)	男	藍 綬	東 京 都	現 町田市消防団 団長	飯 島 保 彦 (59)	男
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 副団長	古 川 哉 司 (60)	男	藍 綬	栃 木 県	現 上三川町消防団 団長	稲 葉 長 広 (59)	男	藍 綬	東 京 都	元 芝消防団 分団長	稲 葉 一 春 (76)	男
藍 綬	山 形 県	現 中山町消防団 副団長	大 津 光 弘 (54)	男	藍 綬	栃 木 県	元 栃木市消防団 副団長	棚 橋 利 行 (63)	男	藍 綬	東 京 都	現 赤坂消防団 副団長	石 岩 澤 友 幸 (71)	男
藍 綬	山 形 県	現 河北町消防団 団長	古 関 正 彦 (63)	男	藍 綬	栃 木 県	現 壬生町消防団 団長	戸 崎 代志夫 (57)	男	藍 綬	東 京 都	現 高輪消防団 副団長	浦 崎 宏 吉 (62)	男
藍 綬	山 形 県	現 山辺町消防団 副団長	後 藤 昌 広 (55)	男	藍 綬	栃 木 県	現 小山市消防団 副団長	吉 田 和 男 (63)	男	藍 綬	東 京 都	現 板橋消防団 副団長	海老根 洋 一 (63)	男
藍 綬	山 形 県	現 尾花沢市消防団 団長	土 屋 典 雄 (71)	男	藍 綬	群 馬 県	現 館林地区消防組合 邑楽消防団 団長	神 立 鉄 也 (51)	男	藍 綬	東 京 都	元 本郷消防団 副団長	岡 田 博 (73)	男
藍 綬	山 形 県	現 大石田町消防団 団長	早 坂 和 義 (61)	男	藍 綬	群 馬 県	現 館林地区消防組合 邑楽消防団 団長	横 井 広 征 (56)	男	藍 綬	東 京 都	現 臨港消防団 分団長	小 川 建 司 (71)	男
藍 綬	福 島 県	現 蛟川村消防団 副団長	赤 坂 浩 幸 (60)	男	藍 綬	埼 玉 県	現 横瀬町消防団 副団長	田 口 昭 (57)	男	藍 綬	東 京 都	現 八丈町消防団 副団長	沖 山 克 身 (60)	男
藍 綬	福 島 県	現 天栄村消防団 副団長	金 子 孝 行 (53)	男	藍 綬	千 葉 県	現 野田市消防団 団長	木 名瀬 訓 光 (58)	男	藍 綬	東 京 都	現 本田消防団 副団長	倉 持 恒 夫 (74)	男
藍 綬	福 島 県	現 白河市消防団 副団長	近 藤 信 雄 (60)	男	藍 綬	千 葉 県	現 山武市消防団 団長	高 田 淳 (59)	男	藍 綬	東 京 都	現 小岩消防団 副団長	小 泉 和 久 (62)	男
藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 副団長	濱 武 嗣 (68)	男	藍 綬	千 葉 県	現 船橋市消防団 分団長	平 由 正 彦 (64)	男	藍 綬	東 京 都	現 麻布消防団 団長	志 田 周 規 (74)	男
藍 綬	福 島 県	現 三春町消防団 団長	村 上 輝 男 (62)	男	藍 綬	東 京 都	現 蒲田消防団 分団長	浅 井 良 広 (67)	男	藍 綬	東 京 都	現 滝野川消防団 副団長	鈴木 啓 三 (68)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	東 京 都	現 麹町消防団 副団長	鈴木 徹 (59)	男	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市港南消防団 団長	鈴木 祐 次 (64)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 中津川市消防団 副団長	杉 崎 栄 治 (56)	男
藍 綬	東 京 都	現 矢口消防団 副団長	鈴木 広 司 (60)	男	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市旭消防団 副団長	清水 隆 司 (65)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 恵那市消防団 副団長	西 尾 明 弥 (56)	男
藍 綬	東 京 都	現 上野消防団 副団長	戸 松 雅 司 (71)	男	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市幸消防団 分団長	成 川 秀 幸 (63)	男	藍 綬	愛 知 県	現 稲沢市消防団 副団長	川 口 啓 司 (61)	男
藍 綬	東 京 都	現 城東消防団 副団長	中 嶋 雅 樹 (62)	男	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市港北消防団 分団長	羽 島 勝 実 (65)	男	藍 綬	愛 知 県	現 東海市消防団 団長	沼 澤 恒 一郎 (65)	男
藍 綬	東 京 都	現 渋谷消防団 副団長	中 嶋 道 俊 (68)	男	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市臨港消防団 分団長	横 森 久 雄 (62)	男	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市表山消防団 団長	平 野 俊 一 (69)	男
藍 綬	東 京 都	現 京橋消防団 副団長	中 野 喜久雄 (75)	男	藍 綬	石 川 県	現 七尾市消防団 副団長	廣 瀬 孝 (64)	男	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市那古野消防団 団長	山 口 孝 夫 (74)	男
藍 綬	東 京 都	現 池袋消防団 副団長	和 田 健 男 (69)	男	藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 副団長	中 野 亨 (61)	男	藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	伊 藤 隆 (68)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜賀手消防団 副団長	石 川 栄 一 (61)	男	藍 綬	山 梨 県	現 身延町消防団 分団長	渡 邊 吉 美 (68)	男	藍 綬	三 重 県	現 いなべ市消防団 副団長	児 玉 豊 (66)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市中原消防団 分団長	猪 谷 昌 美 (59)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 養老町消防団 団長	伊 藤 勝 則 (62)	男	藍 綬	三 重 県	現 伊賀市消防団 副団長	樽 井 繁 (55)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市神奈川消防団 副団長	落 合 繁 (69)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 神戸町消防団 副団長	稲 川 方規臣 (58)	男	藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 分団長	西 村 善 行 (61)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市都英消防団 団長	角 田 隆 雄 (65)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 下呂市消防団 副団長	大 前 英 之 (56)	男	藍 綬	滋 賀 県	現 彦根市消防団 副団長	北 村 正 己 (63)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市中消防団 副団長	黒 柳 祥 子 (64)	女	藍 綬	岐 阜 県	現 下呂市消防団 副団長	大 森 博 文 (56)	男	藍 綬	滋 賀 県	現 野洲市消防団 副団長	澤 由 紀 夫 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
藍 綬	滋 賀 県	現 草津市消防団 副団長	田 村 康 雄 (57)	男	藍 綬	奈良 県	現 葛城市消防団 副団長	山 田 裕 清 (64)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 分団長	奥 村 誠 二 (63)	男
藍 綬	大 阪 府	現 大東市消防団 副団長	長 田 和 久 (63)	男	藍 綬	和歌山 県	現 和歌山市消防団 団長	青 木 秀 行 (69)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 都城市消防団 副団長	温 水 正 弘 (67)	男
藍 綬	大 阪 府	現 交野市消防団 団長	鈴 木 基 也 (69)	男	藍 綬	岡 山 県	現 津山市消防団 副団長	東 村 憲 昌 (60)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 副団長	東 和 範 (48)	男
藍 綬	大 阪 府	現 茨木市消防団 副団長	藤 岡 隆 光 (63)	男	藍 綬	福 岡 県	現 芦屋町消防団 分団長	浅 井 和 生 (66)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 えびの市消防団 副団長	吉 留 優 二 (58)	男
藍 綬	大 阪 府	現 柏原市消防団 分団長	安 邑 英 敏 (73)	男	藍 綬	福 岡 県	現 北九州市戸畑消防団 団長	伊 藤 洋 一 (61)	男	紅 綬	宮 崎 県	人命救助者	坂ノ上 大 祐 (19)	男
藍 綬	大 阪 府	現 富田林市消防団 分団長	山 本 孝 信 (55)	男	藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 分団長	熊 谷 直 秀 (62)	男	藍 綬	鹿 児 島 県	現 鹿児島市消防団 副団長	枇 俣 稔 (66)	男
藍 綬	兵 庫 県	現 神戸市長田消防団 団長	赤 木 康 孝 (60)	男	藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 分団長	近 藤 和 彦 (60)	男	黄 綬	千 葉 県	現 俣新衛設備 代表取締役	笠 原 秀 一 (71)	男
藍 綬	兵 庫 県	現 芦屋市消防団 副団長	大 宮 義 弘 (57)	男	藍 綬	福 岡 県	現 大任町消防団 団長	佐々木 恵 治 (73)	男	黄 綬	岡 山 県	現 消防システム 代表取締役	山 崎 泰 二 (81)	男
藍 綬	兵 庫 県	現 神戸市水上消防団 団長	渡 邊 真 二 (58)	男	藍 綬	福 岡 県	現 八女市消防団 副団長	椿 原 淳 (57)	男	黄 綬	佐 賀 県	現 南里ポンプ場 代表取締役	野 津 昌 彦 (66)	男
藍 綬	奈 良 県	現 御所市消防団 分団長	石 川 吉 胤 (64)	男	藍 綬	福 岡 県	現 水巻町消防団 副団長	坪 井 和 彦 (66)	男	藍 綬	鹿 児 島 県	元 (一社)鹿児島県 消防設備安全協会 会長	川 畑 宏 二 (66)	男
藍 綬	奈 良 県	現 王寺町消防団 団長	柏 木 浩 二 (62)	男	藍 綬	福 岡 県	現 久留米市消防団 副団長	八 尋 義 文 (57)	男	黄 綬	東 京 都	現 オリロー園 代表取締役社長	今 井 正 幸 (70)	男
藍 綬	奈 良 県	現 河合町消防団 団長	仲 井 克 明 (61)	男	藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	樋 田 竜 一 (53)	男	黄 綬	神 奈 川 県	現 ニッショウ機器㈱ 代表取締役社長	清水 健 男 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
黄 綬	兵 庫 県	現 エア・ウォーター 防炎㈱ 会長	山 本 智 幸 (64)	男

公益財団法人 日本消防協会 ホームページのご案内

日本消防協会ホームページでは、各種案内をしております。
また、各種共済制度や年金制度の申請様式をダウンロード
できますので、下記URLまたはQRコードからホームページにア
クセスしてください。

<https://www.nissho.or.jp/>



うちの

名物団員



長野県

上田市消防団 第17分団 副分団長

西島 圭一

上田市消防団第17分団副分団長を務める西島圭一さんは、「信州の鎌倉」と呼ばれる別所温泉で創業約70年の「島屋菓子舗」を営んでいます。店舗では、名物「厄除け饅頭」はもちろん、生のフルーツを使用した新食感の溶けないアイス「くずバー」が好評です。また、西島さんは、500年以上続く選択無形民俗文化財「岳の幟」で獅子舞の舞子として伝統を受け継ぐ活動に尽力し、地域のつながりを大切にしながら、防災活動にも積極的に取り組んでいます。



神奈川県

松田町消防団 第3分団 団員

鈴木 玲温

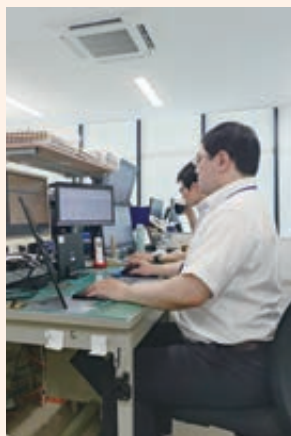
松田町消防団からは、鈴木玲温団員を紹介します。鈴木団員は、普段松田町役場の職員として働いています。令和6年能登半島地震では、消防団で培った経験を活かすため、役場職員として自ら志願し現地で災害支援を行いました。鈴木団員は、「今回の派遣を糧に、消防団としても町民の方の安心安全を守ります。」と仰っていました。経験豊富な鈴木団員の今後の活躍に期待しています。



小野市消防団からは、中分団山口博之副分団長を紹介します。

現在、山口副分団長は市役所のICT推進課で勤務をしています。パソコン知識に精通しており、その知識を活かし名簿管理や活動記録、報酬管理といった様々な団員管理システムを作り上げ消防団運営のDX化に尽力しています。

公私とも小野市民の負託に応える活躍に今後も期待しています。



伊予市消防団から第6分団第1部白尾義盛団員を紹介します。

伊予市中山町は、日本三大栗のひとつ「中山栗」の産地です。江戸時代には、三代将軍徳川家光にも献上され、大いに喜ばれたとされています。消防団の中でもムードメーカーである白尾団員は、「道の駅なかやま」の駅長として、管理運営のかたわら、自ら焼き栗の実演販売を行い、中山栗の美味しさを全国に発信しております。



永留さんは建設業を営まれる傍ら、永きにわたり消防団活動に人一倍の精力を注いでこられた人物で、特に「ポンプ操法」に懸けては、右に出る者は後にも先にもいないであろうと言われるほどで、地元消防団における絶大な求心力と信頼関係を築いております。また、活動は地元対馬市だけに止まらず、全国各地の被災地に足を運びボランティア活動を展開されるほどです。これからも地域住民の安心・安全を守る砦として活躍を期待いたします。



写真は長崎県消防ポンプ操法大会(R6)
(前列左から2番目が永留筆頭副団長)

消防団の広場

神奈川県「新時代の消防団」

松田町消防団
団長

矢崎 吉一



松田町は神奈川県西部に位置し、北は丹沢大山国定公園・西丹沢山系のふところに抱かれ、南は酒匂川流域にひろがる豊穡な足柄平野。松田町はその中心として、古くから交通の要衝として栄え、自然と文化が調和する街です。

人口は約10,300人で、町の面積の7割が山々に囲われております。

松田町消防団は、「消防組織法」に基づき昭和30年4月1日に設立され、本団、7個分団、機能別消防団員、計126名で編成されています。第1分団から第4分団は市街地の松田地区を管轄し、第5分団から第7分団は山間部の寄地区を管轄しています。また、第5分団から第7分団は、山での遭難事故が発生した場合、迅速かつ的確な搜索活動を実施するた

め、遭難救助隊を組織します

8月9日には、神奈川県西部で「最大震度5弱」の揺れを観測しました。翌日朝6時から、町の要請を受け、町内全域でパトロールを実施しました。また、同月末には、台風10号による大雨の被害を受け、河川パトロール等を実施し、町民の方の安心安全の確保に努めました。

「災害は忘れた頃にやってくる」といいますが、近年の災害はいつ来てもおかしくない状況であり、大規模地震、大型台風、長期前線停滞、富士山噴火などの大規模災害の可能性が高まっていると言われています。消防団員は、火事や災害対応のため、消防団を中核とした地域の防災力の向上が求められ、果たす役割はますます大きくなっています。反面、年々消防団の人員は不足しています。

こうした状況の中、巨大化する近未来の災害に備え、「新時代の消防団」が必要です。

「火災ゼロ」を目標とし、訓練により団員の練度を向上させ、消防団として一致団結、町民の安全安心のために精進してまいりますので、今後とも町民の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



ポンプ機能検査及び操作訓練



花火大会警備写真

2024年度 全国統一防火標語

「守りたい 未来があるから 火の用心」

令和7年1月の日本消防協会関係行事

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1月14日(火)～17日(金) | 第51回消防団幹部特別研修 |
| 1月24日(金) | 全国消防殉職者遺族会理事会 |
| 1月29日(水)～31日(金) | 第24回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部) |

編集後記

つんとした冷たい空気に、ひんやりとした風。もう季節はすっかり冬ですね。

今年もあとわずか…ご愛読いただきました皆様、一年間、本当にありがとうございました。

消防庁のホームページで2024年の「災害情報一覧」を今一度振り返ってみると、元日から石川県の令和6年能登半島地震から始まり、航空機事故や大雨被害など、今年も災害が多く発生しました。来年こそはその様な災害が無いことを祈りつつ、災害への備えだけはしっかりと整えたいものです。

もうこの時期になりますと、消防団の皆様は年末の夜警などでお忙しくされているかと思いますが、正月に向けて体調を整えつつ、良い年をお迎え頂きたいと思います。(T.I)

「NEO(新しい)飛騨市消防団」をご存じでしょうか。岐阜県飛騨市は人口減少が進み団員確保に苦勞する中、団員と家族の負担軽減などを目的とした様々な改革を着実に実行しています。

正月の出初式は今年で最後とし、来年からは4月の入隊団式と合わせて開催することとしたほか、操法大会を廃止し、消火技術や安全確保を実践的に訓練する「飛騨^{ひまわり}消火訓練会」を今年6月に開催しました。事前の訓練にかかった日数は、操法の練習より大幅に少なくとも十分だったそうです。また、表彰式なども商品券の配布に替えるなど、大幅に簡素化しています。

料理の世界に、「変わらない味を守るために、味を変えなければならない」という言葉があります。地域を守る大事な消防団が、変わらずその役割を果たすためには、時代の変化に合わせて変えなければならないことが多いと感じます。そして、消防団には、自ら変わる力があると信じています。(T.Y)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十七巻第十二号
令和六年十二月五日印刷
令和六年十二月十日発行

編集人 米澤 健

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目十九番十六

電話 〇三(6263)九四〇一(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六―二二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

口 絵 「地域総参加の防災力向上大会」の開催
「自治体消防 75 周年記念大会」の開催

巻頭言 「地域に根差した魅力ある消防団を目指して」『不易流行』—不変の中の変化

..... (公財)長野県消防協会 会長 福澤 賢治	1
日消の動き 自治体消防 75 周年記念大会、開催しました	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 3
「地域総参加の防災力向上大会」の開催	(公財)日本消防協会 4
第 13 回日中韓消防協会会議の開催	(公財)日本消防協会 9
自治体消防 75 周年記念大会の開催	(公財)日本消防協会 10
特別表彰「まとい」を受賞して 「地域の消防防災の要として」	
..... 宮崎県 高千穂町消防団 団長 馬原 祥	16
東西南北 (兵庫県) 「持続可能な消防団を目指して」	加東市消防団 団長 井上 正義 18
東西南北 (長崎県) 「自分たちのまちは自分たちで守る」	大村市消防団 団長 田中 研太郎 20
東西南北 (鹿児島県) 「継承! 防災に強い街作りを目指して」	姶良市消防団 団長 三宅 利秋 22
シンフォニー (愛媛県) 「未来を見据えた一歩」	
..... 今治市消防団 今治方面隊女性部 副分団長 桑村 広子	24
消防団加入促進への取組み 消防団の活動を知ってもらうために	鳥取県 米子市消防団 26
消防団加入促進への取組み 消防団魅力発信!! ~徳島市消防団の新たな取組み~	
..... 徳島県 徳島市消防団 団長 賀好 宏文	28
消防団の現況	(公財)日本消防協会 30
令和 6 年秋の消防関係叙勲及び褒章伝達式	総務省消防庁 32
うちの名物団員	長野県、神奈川県、兵庫県、愛媛県、長崎県 44
消防団の広場(神奈川県) 「新時代の消防団」	松田町消防団 団長 矢崎 吉一 46

編集後記

表紙写真説明

「長崎ランタンフェスティバル (中央公園会場)」

長崎在住の華僑の方々が中国の旧正月(春節)を祝うための行事として、昭和 62 年から「春節祭」として長崎新地中華街を中心に行われ、平成 6 年から規模を拡大、「長崎ランタンフェスティバル」として、長崎の冬を彩る一大風物詩となっている。

長崎新地中華街はもとより、浜市・観光通りアーケード等の市街中心部に約 1 万 5 千個のランタン(中国提灯)が飾られ、湊公園をはじめとする各会場には、大型オブジェが飾られている。

期間中、各会場では龍踊り、中国雑技、中国獅子舞など、中国色豊かなイベントが 15 日間繰り広げられ、特に、「皇帝パレード」や「媽祖(まそ)行列」は盛り上がりを見せる。

写真提供者：(一社)長崎県観光連盟